

第 46 回目黒区世論調査
(単純集計結果)

令和 2 年 12 月

目黒区

目 次

1. 実施概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の内容	1
(3) 調査の設計	1
(4) 回収結果	3
(5) 留意事項	3
2. 調査結果のまとめ	4
(1) 目黒区での居住・暮らし向きについて	4
(2) 区政の各分野における実態・区民意識等	4
(3) 区の施策の重視度	6
(4) その他	6
3. 調査結果	7
(1) 回答者属性.....	7
① 性別	7
② 年齢（満年齢）	7
③ 居住地域.....	8
④ 職業.....	8
⑤ 世帯構成.....	9
⑥ 配偶者	9
⑦ 就学前乳幼児、小・中学生、65歳以上の方の有無	10
⑧ 住宅の種類	10
(2) 目黒区での居住について	11
① 目黒区での居住年数	11
② 目黒区に居住する理由	11
③ 今後の目黒区での居留意向	12
④ 目黒区に居住したくない理由	12
⑤ 今後の住環境で重視すること	13
(3) 暮らし向き・仕事	14
① 暮らし向きの変化の状況	14
② 暮らし向きの変化の理由	14
③ 勤務先のテレワーク導入状況	15
④ 今後のテレワークへの意向	15
(4) 防災.....	16

① 家庭における災害への備え	16
② 防災訓練への参加経験の有無	16
③ 防災訓練に参加しない理由	17
④ 災害情報収集の手段	17
(5) 地域活動・コミュニティ	18
① 近所づきあいの頻度	18
② 町会・自治会への加入状況	18
③ 町会・自治会に加入していない理由	19
④ 町会・自治会や住区住民会議が行う地域活動の認知	19
⑤ 地域活動への参加経験	20
⑥ 参加したことのある地域活動の分野	20
⑦ コロナ禍でも維持を希望する地域活動	21
⑧ 地域活動に参加しやすくなるために必要なこと	21
(6) 運動・スポーツ	22
① 新型コロナウイルス感染拡大以前の運動・スポーツの頻度	22
② 新型コロナウイルス感染拡大以前に行っていた運動・スポーツの種類	22
③ 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除以降のスポーツ・運動の頻度	23
④ 行っているスポーツ・運動の種類	23
⑤ 新型コロナウイルス感染拡大以降の運動量	24
⑥ コロナ禍におけるスポーツ・運動時の感染症対策	24
⑦ 今後行いたい運動・スポーツ	25
⑧ この1年間に行ったスポーツに関するボランティア活動の頻度	25
(7) 福祉・子育て	26
① 高齢者の介護をしているか	26
② 被介護者との続柄	26
③ 障害を抱える方を介護しているか(65歳以上及び小学生以下を除く)	27
④ 被介護者との続柄	27
⑤ 小学生以下の子どもを育児しているか	28
⑥ 育児中の子どもの状況	28
⑦ 介護・育児をする上での懸念点・困りごと	29
⑧ コロナ禍における健康・福祉に関する困りごと	29
⑨ 安心して介護・育児に取り組むために必要な支援	30
(8) 都市計画・街づくり	31
① 20年後の目黒区の将来の街として、最も望ましい姿	31
② みどりのまちづくりに向けて取り組みたいこと	31
③ 公園の魅力を向上するのに必要だと思うこと	32

④ 「目黒のサクラ基金」の認知度	32
⑤ 桜の保全活動への参加意向	33
⑥ 「生物多様性」の認知度	33
(9) 地球温暖化対策	34
① 地球温暖化問題を意識しているか	34
② 地球温暖化防止のため取り組みたいこと	34
③ 地球温暖化防止のため区に取り組んでほしいこと	35
(10) 生涯学習	36
① 新型コロナウイルス感染拡大以前の生涯学習活動	36
② 新型コロナウイルス感染拡大以前の生涯学習活動の内容	36
③ 生涯学習活動を行わなかった理由	37
④ 生涯学習推進のために必要なこと	37
⑤ 新型コロナウイルス感染拡大前の知識や経験を活かした地域の活動等	38
⑥ 過去1年の間に区立図書館を利用したか	38
⑦ 区立図書館に期待するサービス	39
(11) 広報・ホームページ	40
① 区の情報を入手するための手段	40
② 広報紙「めぐろ区報」の入手場所	40
③ 「めぐろ区報」を入手しない理由	41
④ 目黒区公式ホームページへの満足度	41
⑤ 目黒区公式ホームページに満足できない理由	42
⑥ 目黒区公式ホームページの利便性向上に必要なこと	42
(12) 自転車の安全利用について	43
① 自転車の安全利用	43
② 自転車保険への加入状況	43
③ 自転車利用時のヘルメット着用	44
(13) プラスチック資源の分別	45
① プラ容器等の処分方法	45
② プラ容器等を資源として分別しやすくする方法	45
③ プラ容器等以外のプラスチック製品の望ましい回収方法	46
④ ③のように考えた理由	47
(14) 区の施策について	48
① 今後10年の間に、目黒区の施策として重視すべき取組	48
② 特に優先すべき施策	50
③ オンライン化を希望する行政手続	51
④ 区有施設について取り組むべき方策	51

⑤ 民間活力を用いた区有施設の管理・運営への考え方.....	52
⑥ 民間活力を用いた区有施設の整備・保有への考え方.....	52

1. 実施概要

(1) 調査目的

本調査は、区民の生活実態の把握及び区政の各分野について区民の意識、意向、意見や要望等を把握するとともに、2020年の新型コロナウイルス感染症が区民に及ぼした影響を把握し、これを今後の区政に反映させることを目的としたものである。

(2) 調査の内容

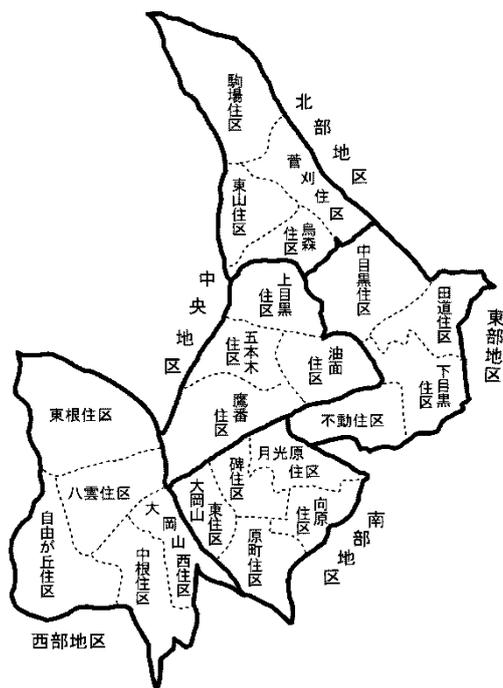
本調査は、以下の調査項目について行った。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 目黒区での居住について | 8. 地球温暖化対策 |
| 2. 暮らし向き・仕事 | 9. 生涯学習 |
| 3. 防災 | 10. 広報・ホームページ |
| 4. 地域活動・コミュニティ | 11. 自転車の安全利用について |
| 5. 運動・スポーツ | 12. プラスチック資源の分別 |
| 6. 福祉・子育て | 13. 区の施策について |
| 7. 都市計画・街づくり | |

(3) 調査の設計

1. 調査地域：目黒区全域
2. 調査対象：目黒区在住の満18歳以上の男女個人
3. 標本数：3,000人
4. 抽出台帳：目黒区住民基本台帳（令和2年8月15日現在）
5. 抽出方法：層化無作為抽出
6. 調査方法：郵送調査法（回答は電子申請を併用）
7. 調査期間：令和2年10月5日～10月30日

図表 1 地域区分



図表 2 地域・住区・町丁目対応表

地区	住 区	区 域
北 部	駒 場 住 区	駒場 1～4 丁目、大橋 2 丁目の一部
	菅 刈 住 区	青葉台 1～4 丁目、大橋 1 丁目、上目黒 1 丁目の一部
	東 山 住 区	東山 1 丁目の一部、東山 2・3 丁目、上目黒 5 丁目の一部、大橋 2 丁目の一部
	鳥 森 住 区	東山 1 丁目の一部、上目黒 2・3・5 丁目の各一部
東 部	中 目 黒 住 区	上目黒 1～3 丁目の各一部、中目黒 1～3 丁目、中目黒 4・5 丁目の各一部
	田 道 住 区	三田 1・2 丁目、目黒 1 丁目、目黒 2・3 丁目の各一部、中目黒 4 丁目の一部
	下 目 黒 住 区	目黒 2・3 丁目の各一部、下目黒 1～3 丁目
	不 動 住 区	下目黒 4～6 丁目、目黒本町 1 丁目
中 央	上 目 黒 住 区	上目黒 4 丁目、中目黒 5 丁目の一部、五本木 1 丁目、祐天寺 1・2 丁目
	油 面 住 区	中目黒 5 丁目の一部、目黒 4 丁目、中町 1 丁目、中町 2 丁目の一部
	五 本 木 住 区	五本木 2・3 丁目、中央町 2 丁目、中町 2 丁目の一部
	鷹 番 住 区	中央町 1 丁目、碑文谷 5・6 丁目、鷹番 1～3 丁目
南 部	月 光 原 住 区	目黒本町 2・4 丁目、目黒本町 3・5・6 丁目の各一部
	向 原 住 区	目黒本町 3・5・6 丁目の各一部、原町 1 丁目
	碑 住 区	碑文谷 1・2 丁目、目黒本町 6 丁目の一部
	原 町 住 区	原町 2 丁目、洗足 1・2 丁目、南 1 丁目
	大 岡 山 東 住 区	南 2 丁目、碑文谷 3・4 丁目
西 部	大 岡 山 西 住 区	南 3 丁目、平町 1 丁目、平町 2 丁目の一部、大岡山 1 丁目の一部
	中 根 住 区	大岡山 1 丁目の一部、大岡山 2 丁目、緑が丘 1・3 丁目、中根 2 丁目、平町 2 丁目の一部
	自 由 が 丘 住 区	緑が丘 2 丁目、自由が丘 1～3 丁目、八雲 3 丁目、中根 1 丁目の一部
	八 雲 住 区	柿の木坂 1 丁目、八雲 1・2 丁目、中根 1 丁目の一部
	東 根 住 区	柿の木坂 2・3 丁目、八雲 4・5 丁目、東が丘 1・2 丁目

(4) 回収結果

1. 標 本 数 : 3,000 標本
2. 回 収 総 数 : 1,506 票 回 収 率 : 50.2%
3. 有 効 回 収 数 : 1,506 票 有 効 回 収 率 : 50.2%

(5) 留意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数を指す。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。したがって、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・本文中の%の小計は、各項目の値を四捨五入した上で足し合わせている。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向をみるにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

2. 調査結果のまとめ

(1) 目黒区での居住・暮らし向きについて

- 目黒区に20年以上居住する人の割合が47.9%と、長期居住者の割合が約半数を占めており、今後の居留意向としても、約半数が「ずっと住んでいたい」と回答している。また、目黒区に居住する理由としては、「通勤・通学に便利、交通の便がよいため（59.1%）」の割合が高い。反対に、目黒区に居住したくない理由では、「家賃相場が高いから（48.1%）」の割合が高い。
- 昨年と比較した暮らし向きについて、「変わらない（69.6%）」の次に「苦しくなった（21.5%）」の割合が高い。その理由としては、新型コロナウイルス感染拡大に起因する減収などが挙げられている。
- 自営業や働いていない人を除く目黒区民の勤務状況としては、基本的に出勤するという人が33.3%で多い。今後のテレワーク意向を尋ねたところ、テレワーク希望者と出勤希望者がおおむね半数程度ずつであった。

(2) 区政の各分野における実態・区民意識等

<防災>

- 災害への備えとして「飲料水や非常食を常備している」という人が70.2%にのぼった。一方で、区内の防災訓練へは、参加したことのない人が88.4%と多数を占めた。また、区民が災害情報等を入手する手段としては、「テレビ（67.3%）」の割合が最も高かった。

<地域活動・コミュニティ>

- 近所づきあいを時々でも行っている割合は60.2%、町会・自治会へ加入している割合は52.1%であった。
- 町会・自治会や住区住民会議が行う地域活動の認知度について、前者は28.0%、後者は14.3%となり、あまり高くない。
- 地域活動へよく参加する又は参加したことがあると回答した人は25.5%であり、参加した活動は「地域の伝統継承（お祭り、もちつき大会など）（66.5%）」が多い。

<運動・スポーツ>

- 区民の運動・スポーツの習慣については、新型コロナウイルス感染拡大後にやや低調になっている。運動の内容としては、継続して野外活動（ウォーキング・ジョギング等）及び健康体操（ラジオ体操、ヨガ等）が多い。
- コロナ禍の感染症対策としては、実施中にマスクやフェイスガードをしているという人が55.0%に上った。

<福祉・子育て>

- 高齢者の介護をしている人は11.4%、障害者の介護をしている人は3.4%、小学生以下の子どもを育児している人は14.4%であった。
- コロナ禍における健康・福祉の困りごととして、「新型コロナ感染への不安から、病院に行くのにた

めらってしまう」との回答が 38.9%であった。

- 安心して介護や育児に取り組むために必要な支援として、「介護や育児の費用負担の軽減（経済的支援）」が 43.1%となっており、ニーズが大きい。

<都市計画・街づくり>

- 20 年後の目黒区の街の姿としては、「安全で快適に住み続けられる街（住環境、防災、防犯）」を希望する割合が最も高く 57.9%であった。
- みどりのまちづくりへの協力意向としては、「自宅の庭や玄関などで植物を育てる（39.7%）」、公園の魅力向上のために求めることとしては、「四季折々の花やみどりを感じられること（42.2%）」の割合が高かった。

<地球温暖化対策>

- 地球温暖化の問題を意識している割合は 66.1%であり、自身が取り組みたいこととしては「ごみの減量、リサイクル（78.0%）」、「節電・節水などの省エネルギー行動（58.4%）」が高い割合を示した。
- また、区に取り組んでほしいこととしては、「新エネルギー・省エネルギー設備の導入にかかる助成（33.8%）」、「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供（33.2%）」が高い割合を示した。

<生涯学習>

- 新型コロナウイルス感染拡大以前に生涯学習活動を行った割合は 17.6%にとどまった。内容としては、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、講演会など）（46.4%）」、「健康・スポーツ（水泳、ヨガ、体操、ダンス、健康法など）（44.9%）」の割合が高い。
- 新型コロナウイルス感染拡大以前に地域活動を行った割合はさらに低く、4.9%にとどまった。
- 過去 1 年間に区民図書館を利用した割合は 37.8%であった。区民が今後求めるサービスとしては、「図書資料の充実」が 46.3%で最も高い。

<広報・ホームページ>

- 区民が区の情報を入手する手段としては、「めぐろ区報（48.7%）」の割合が最も高く、次いでスマートフォンやパソコンによってホームページを閲覧するという人が 30%弱であった。めぐろ区報の入手場所については、「新聞の折り込み（38.2%）」が圧倒的に多い。
- 目黒区ホームページに満足している人は 27.3%であり、満足していない人の中からは、「情報が探しにくい（56.6%）」という声も聞かれた。

<自転車の安全利用について>

- 自転車を利用していない人が 52.7%であった。利用者のうち、自転車が道路交通法で軽車両であることを知っているのは 38.8%であった。
- また、何らかの保険に加入している人は 59.9%、乗車時にヘルメットを着用している人は 8.5%（着用しないときがある人も含む）にとどまった。

<プラスチック資源の分別>

- プラスチック製の容器や包装は、「『資源』として分別して出している」が多数で 71.5%であった。

- プラ容器等を資源として分別しやすくするためには、「プラ容器等を分別するときの方法をより分かりやすく周知する」ことを求める人が多く、61.4%であった。
- また、現在燃やすごみとして回収しているその他のプラスチック製品については、資源として回収すべきとの割合が52.2%であった。

(3) 区の施策の重視度

- 今後10年の間に、目黒区の施策としてどのような取組を重視していくべきか尋ねたところ、「重要である」の割合は、とくに「安全・安心」の各施策で58~73%、「子ども・教育」（※生涯学習除く）にて56~58%と、高い割合を示した。
- 「重要である」「まあ重要である」の割合を合わせると、「安全・安心」分野では90%以上、「都市環境」分野では80~90%、「子ども・教育」分野と「保健・医療・福祉」では80%前後となっており、高い割合を示した。
- また、特に優先すべき施策を尋ねたところ、やはり「安全・安心」分野の施策に回答が集まっており、「災害に強い街づくり（53.9%）」、「震災、風水害などへの備え（39.4%）」、「日常生活の安全・安心（32.7%）」となった。

(4) その他

- 各種行政手続や相談などでオンライン化を求めるものは、「住民票の写し、印鑑登録証明書、戸籍の附票や証明書、納課税証明書の交付等申請」の割合が最も高く74.1%となった。
- 今後の区有施設の管理・運営の在り方については、「施設の複合化・集約化により類似する機能をまとめ、施設数を減らしていく方がよい」の割合が46.7%で高い。
- また、区有施設の管理・運営に係る民間活力の活用については、「施設の性質に応じて区の直接管理・運営と民間活力の有効活用を使い分けるべきである」の割合が56.0%となっている。

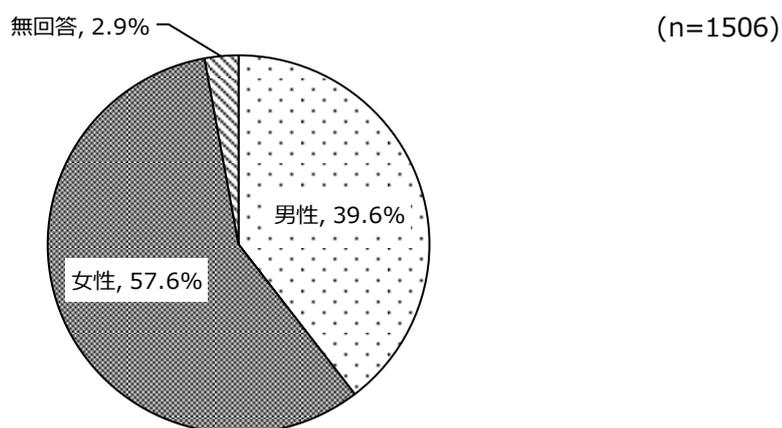
3. 調査結果

(1) 回答者属性

①性別

回答者の性別は、「女性」の割合が 57.6%、「男性」の割合が 39.6%となっている。

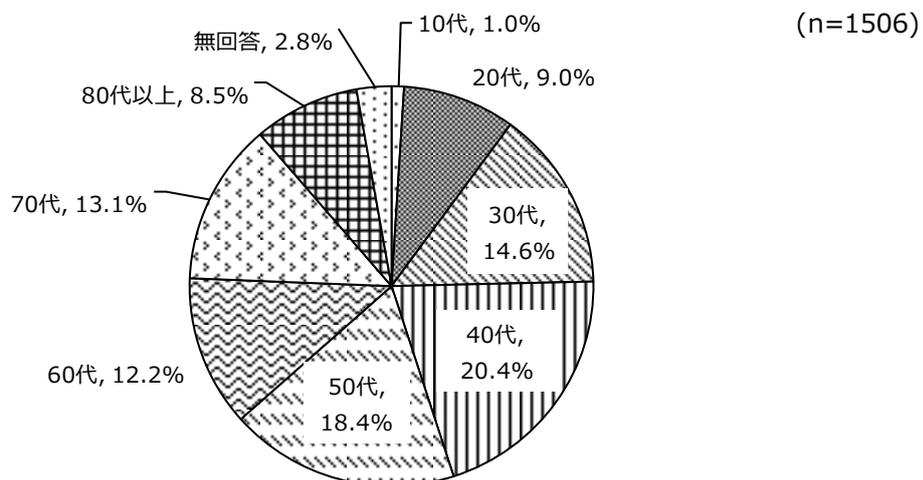
図表 3 性別（単一回答）



②年齢（満年齢）

回答者の年齢は、「40代」の割合が最も高く 20.4%となっている。次いで、「50代(18.4%)」、「30代(14.6%)」となっている。

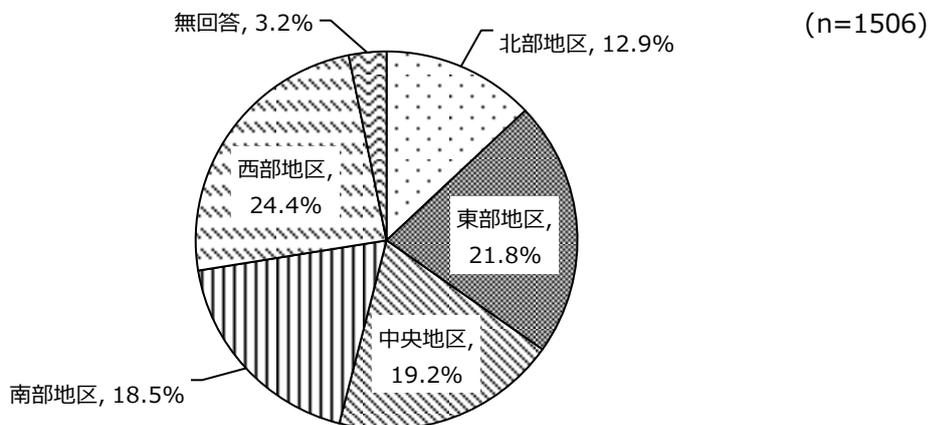
図表 4 年齢（満年齢）（単一回答）



③居住地域

回答者の居住地域は、「西部地区」の割合が最も高く 24.4%となっている。次いで、「東部地区 (21.8%)」、「中央地区 (19.2%)」となっている。

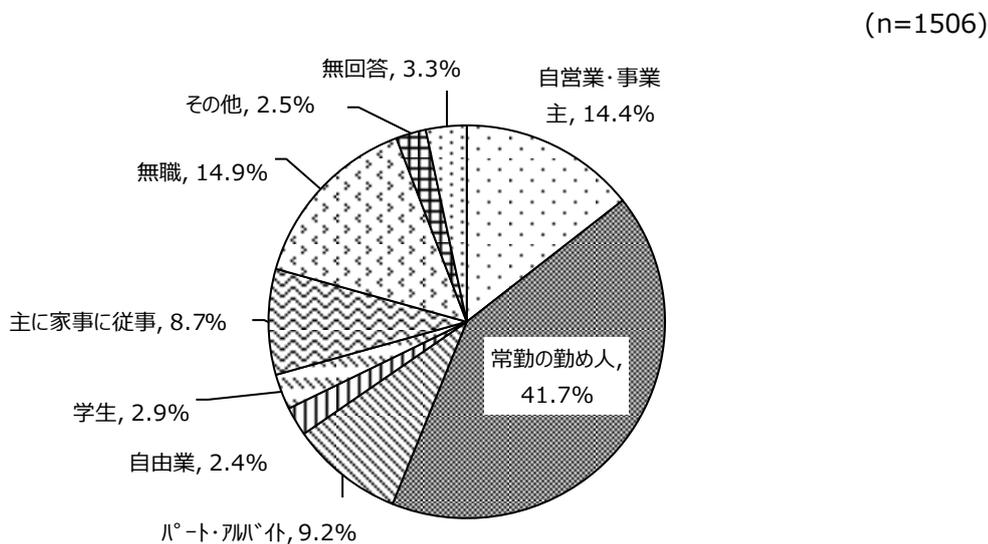
図表 5 居住地域 (単一回答)



④職業

回答者の職業は、「常勤の勤め人」の割合が最も高く 41.7%となっている。次いで、「無職 (14.9%)」、「自営業・事業主 (14.4%)」となっている。

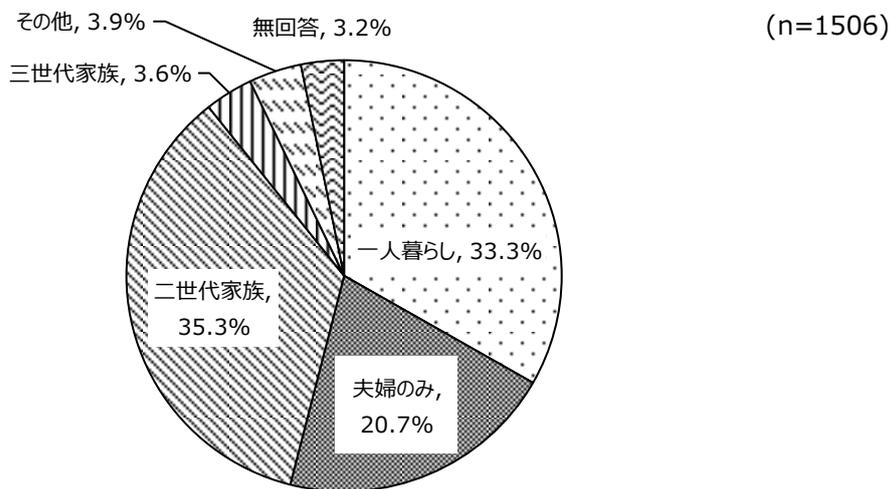
図表 6 職業 (単一回答)



⑤世帯構成

回答者の世帯構成は、「二世世代家族」の割合が最も高く 35.3%となっている。次いで、「一人暮らし (33.3%)」、「夫婦のみ (20.7%)」となっている。

図表 7 世帯構成 (単一回答)



⑥配偶者

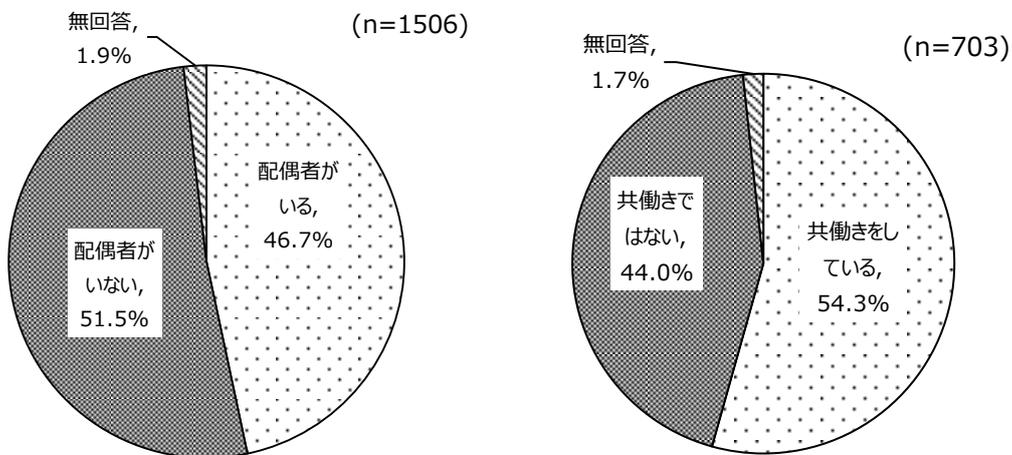
回答者に配偶者の有無を聞いたところ、「配偶者がいない」の割合が 51.5%であり、「配偶者がいる」の割合が 46.7%となっている。

また、「配偶者がいる」と回答したもののうち、「共働きをしている」と回答したものが 54.3%であった。

図表 8 配偶者の有無及び共働き状況 (単一回答)

<配偶者の有無>

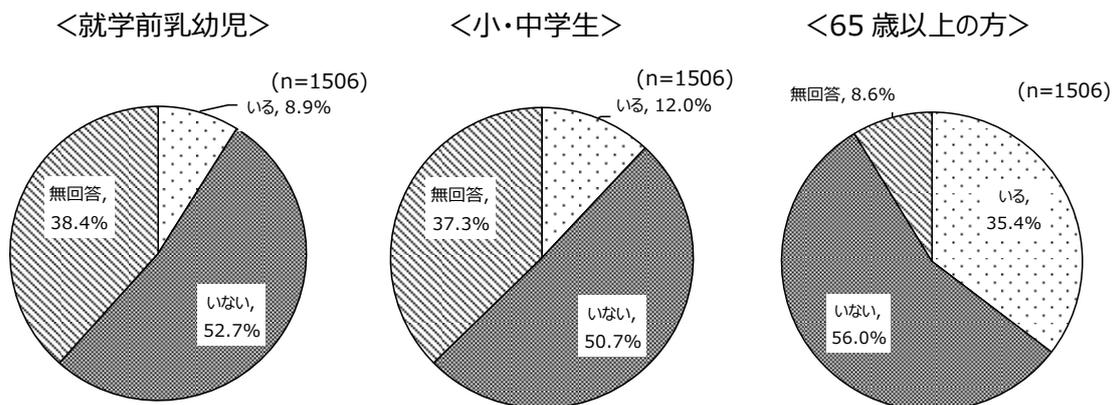
<共働き状況>



⑦就学前乳幼児、小・中学生、65歳以上の方の有無

回答者に、家族に就学前の乳幼児、小・中学生、65歳以上の方（本人を含む）がいるかどうか聞いたところ、就学前乳幼児がいるという割合は8.9%、小・中学生がいるという割合は12.0%、65歳以上の方がいるという割合は35.4%であった。

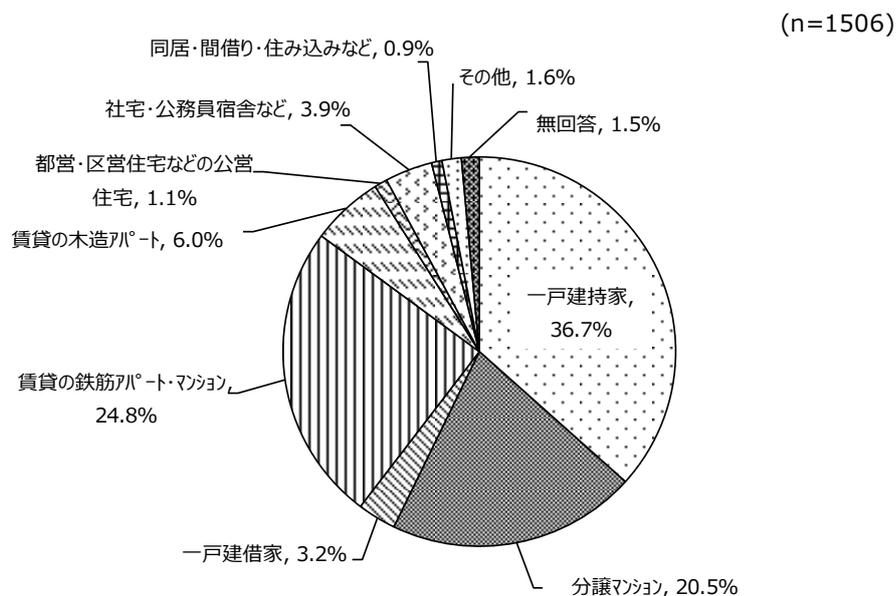
図表 9 乳幼児、小・中学生、65歳以上の方の有無（単一回答）



⑧住宅の種類

回答者の住む住宅の種類は、「一戸建持家」の割合が最も高く36.7%となっている。次いで、「賃貸の鉄筋アパート・マンション (24.8%)」、「分譲マンション (20.5%)」となっている。

図表 10 住宅の種類（単一回答）

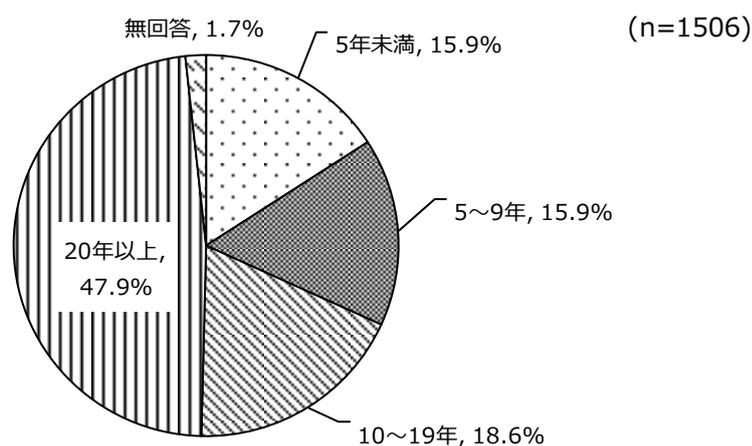


(2) 目黒区での居住について

①目黒区での居住年数

回答者の目黒区での居住年数は、「20年以上」の割合が最も高く47.9%となっている。次いで、「10～19年(18.6%)」、「5～9年(15.9%)」となっている。

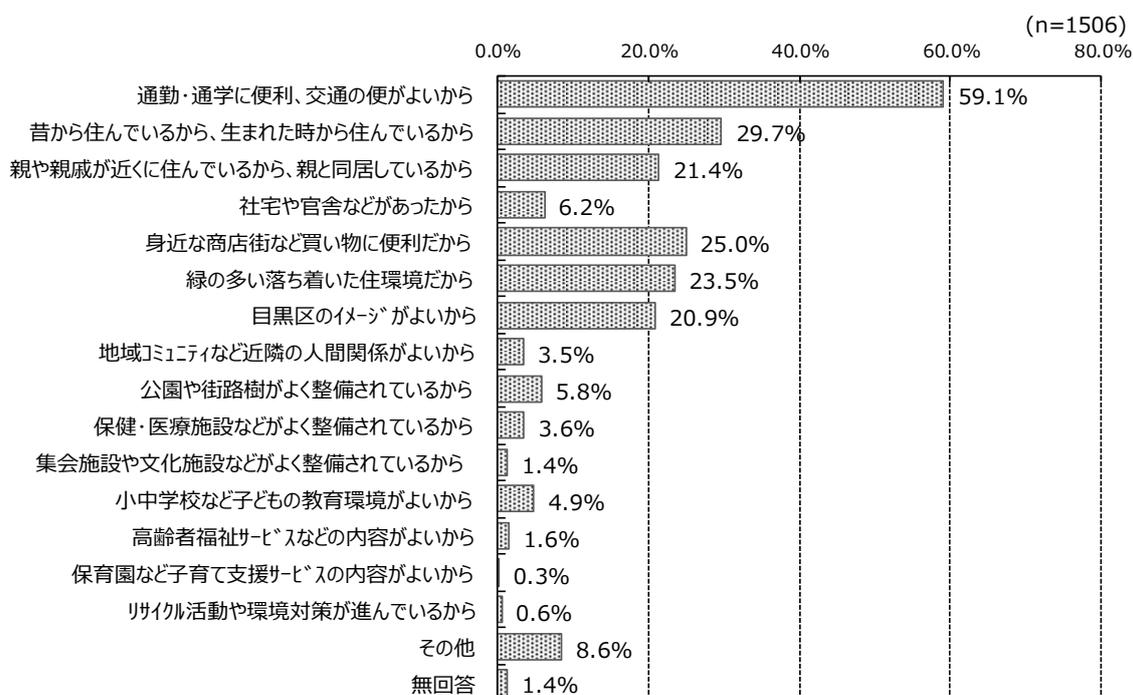
図表 11 目黒区居住年数(単一回答)



②目黒区に居住する理由

目黒区に居住する理由を尋ねたところ、「通勤・通学に便利、交通の便がよいから」の割合が最も高く59.1%となっている。次いで、「昔から住んでいるから、生まれた時から住んでいるから(29.7%)」、「身近な商店街など買い物に便利だから(25.0%)」となっている。

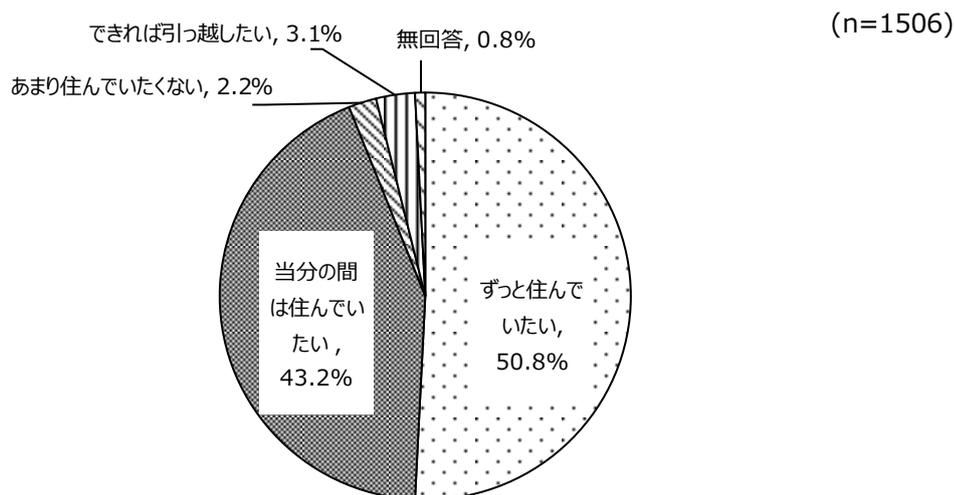
図表 12 目黒区に居住する理由(複数回答:3つまで)



③今後の目黒区での居留意向

今後の目黒区での居留意向を尋ねたところ、「ずっと住んでいたい」の割合が最も高く50.8%となっている。次いで、「当分の間は住んでいたい（43.2%)」、「できれば引っ越したい（3.1%)」となっている。

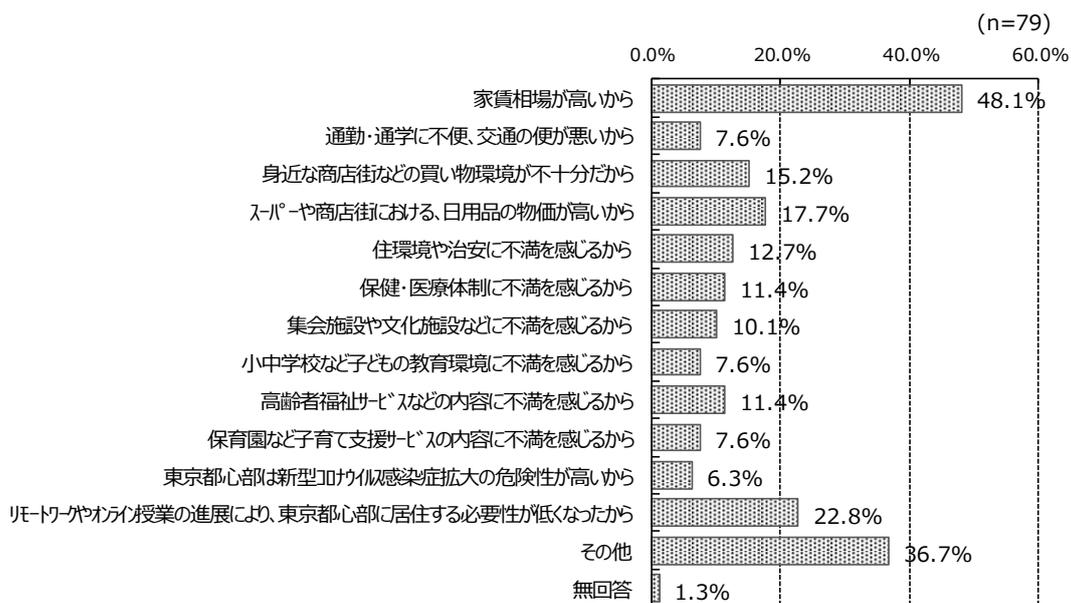
図表 13 今後の居留意向（単一回答）



④目黒区に居住したくない理由

目黒区の居留意向で「あまり住んでたくない」「できれば引っ越したい」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「家賃相場が高いから」の割合が最も高く48.1%となっている。次いで、「その他（36.7%)」、「リモートワークやオンライン授業の進展により、東京都心部に居住する必要性が低くなったから（22.8%)」となっている。

図表 14 目黒区に居住したくない理由（複数回答）



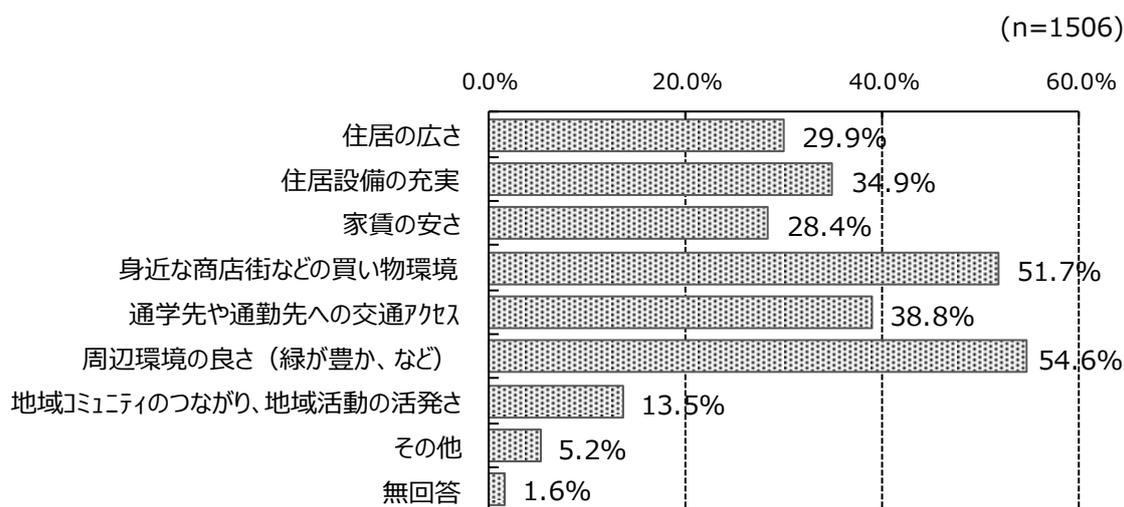
図表 15 その他の内容（一部抜粋、編集）

- ・ 税金（住民税等）が高いため。
 - ・ コロナ対策が十分ではなかったため。
 - ・ 不妊治療の助成金がないため（近隣の区はある）。
 - ・ 近所の治安や騒音等に不満があるため。
 - ・ 地方で、のんびりと静かな環境で生活したい。
 - ・ 長い間住み続けているため、他の場所にも住んでみたい。
- 等

⑤今後の住環境で重視すること

今後の住環境において重要だと思うことを尋ねたところ、「周辺環境の良さ（緑が豊か、など）」の割合が最も高く 54.6%となっている。次いで、「身近な商店街などの買い物環境（51.7%）」、「通学先や通勤先への交通アクセス（38.8%）」となっている。

図表 16 今後の住環境で重視すること（複数回答：3つまで）

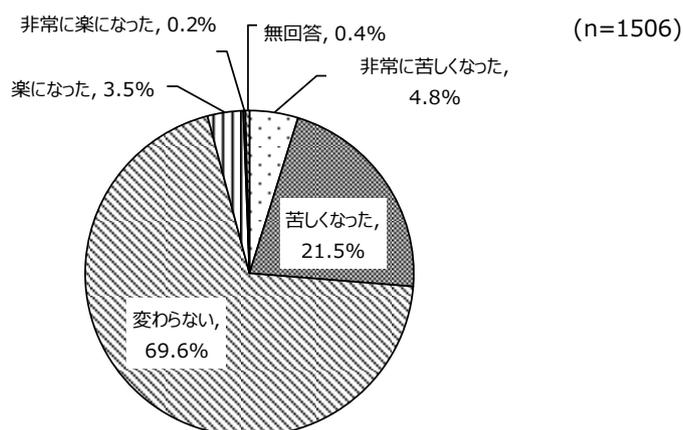


(3) 暮らし向き・仕事

①暮らし向きの変化の状況

昨年と同じ時期と比べた暮らし向き（経済状況）を尋ねたところ、「変わらない」の割合が最も高く 69.6%となっている。次いで、「苦しくなった（21.5%）」、「非常に苦しくなった（4.8%）」となっている。

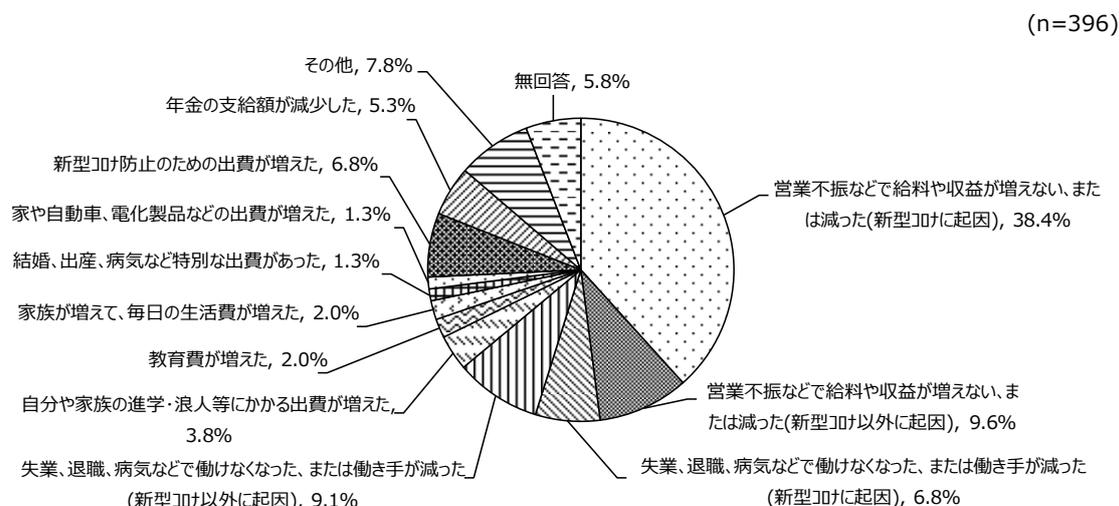
図表 17 暮らし向きの変化の状況（単一回答）



②暮らし向きの変化の理由

暮らし向きが「非常に苦しくなった」「苦しくなった」と回答した人その主な理由（1つ）を尋ねたところ、「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った(新型コロナに起因)」の割合が最も高く 38.4%となっている。次いで、「営業不振などで給料や収益が増えない、または減った(新型コロナ以外に起因)（9.6%）」、「失業、退職、病気などで働けなくなった、または働き手が減った(新型コロナ以外に起因)（9.1%）」となっている。

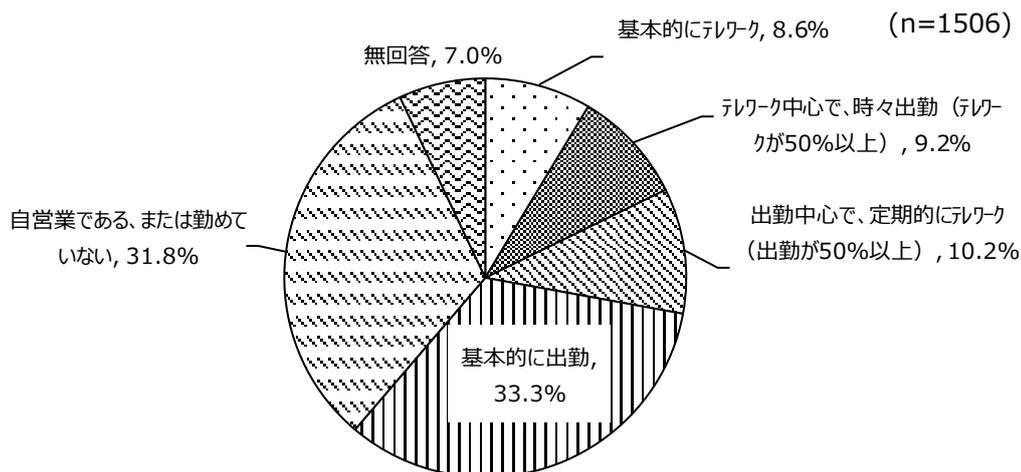
図表 18 暮らし向きの変化の理由（単一回答）



③勤務先のテレワーク導入状況

勤務先でのテレワークの導入状況を尋ねたところ、「基本的に出勤」の割合が最も高く33.3%となっている。次いで、「自営業である、または勤めていない(31.8%)」、「出勤中心で、定期的にテレワーク(出勤が50%以上)(10.2%)」となっている。

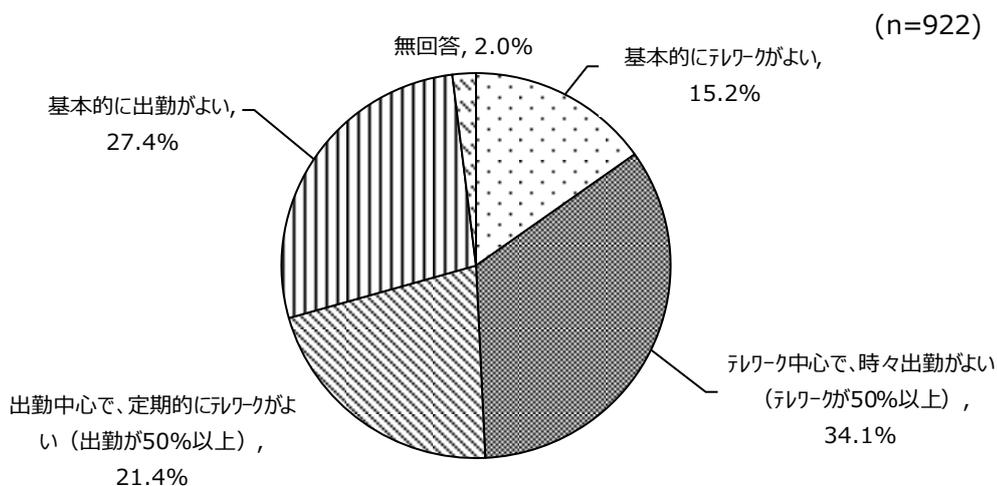
図表 19 テレワーク導入状況(単一回答)



④今後のテレワークへの意向

今後、新型コロナウイルス感染拡大が収束したと仮定した場合のテレワークの意向を尋ねたところ、「テレワーク中心で、時々出勤がよい(テレワークが50%以上)」の割合が最も高く34.1%となっている。次いで、「基本的に出勤がよい(27.4%)」、「出勤中心で、定期的にテレワークがよい(出勤が50%以上)(21.4%)」となっている。

図表 20 テレワーク意向(単一回答)

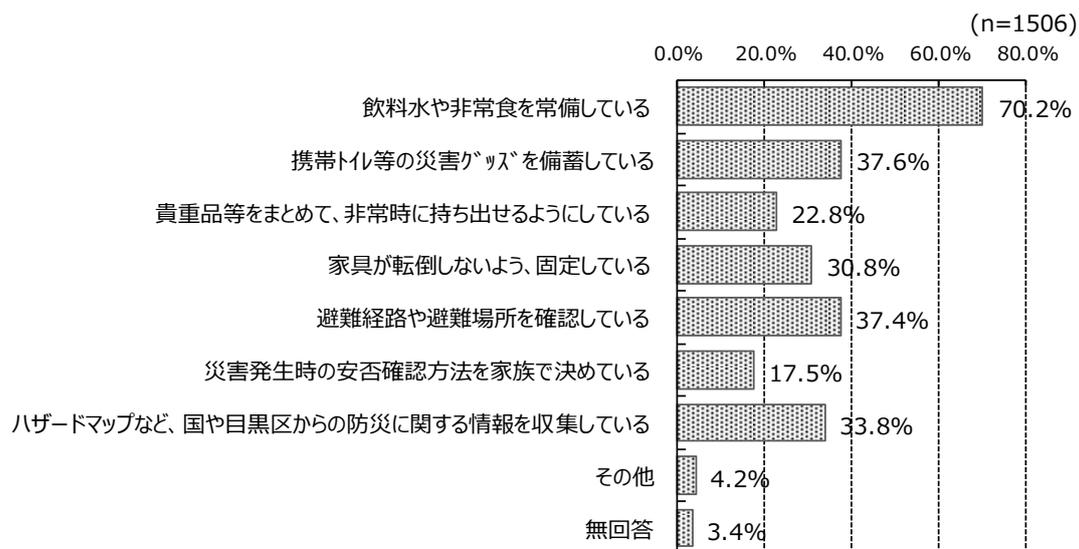


(4) 防災

①家庭における災害への備え

災害への備えとして家庭で行っていることを尋ねたところ、「飲料水や非常食を常備している」の割合が最も高く 70.2%となっている。次いで、「携帯トイレ等の災害グッズを備蓄している (37.6%)」、「避難経路や避難場所を確認している (37.4%)」となっている。

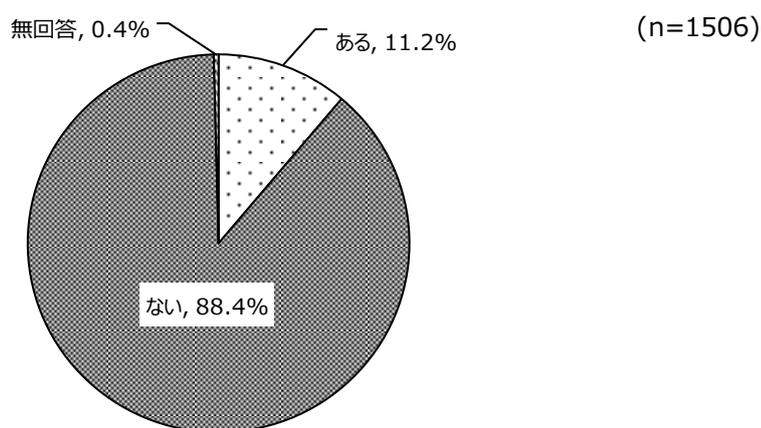
図表 21 家庭における災害への備え (複数回答)



②防災訓練への参加経験の有無

区内の防災訓練への参加経験を尋ねたところ、「ない」の割合が最も高く 88.4%となっている。次いで、「ある (11.2%)」となっている。

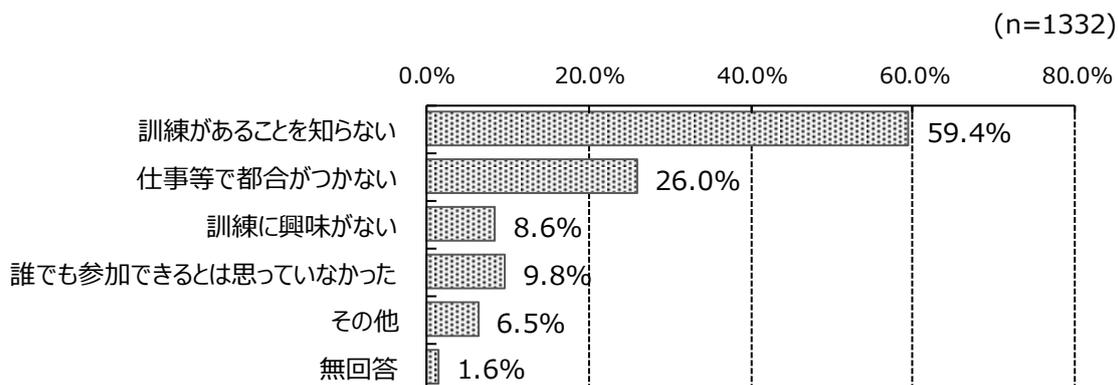
図表 22 防災訓練への参加経験 (単一回答)



③防災訓練に参加しない理由

区内の防災訓練に参加経験が「ない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「訓練があることを知らない」の割合が最も高く59.4%となっている。次いで、「仕事等で都合がつかない(26.0%)」、「誰でも参加できるとは思っていなかった(9.8%)」となっている。

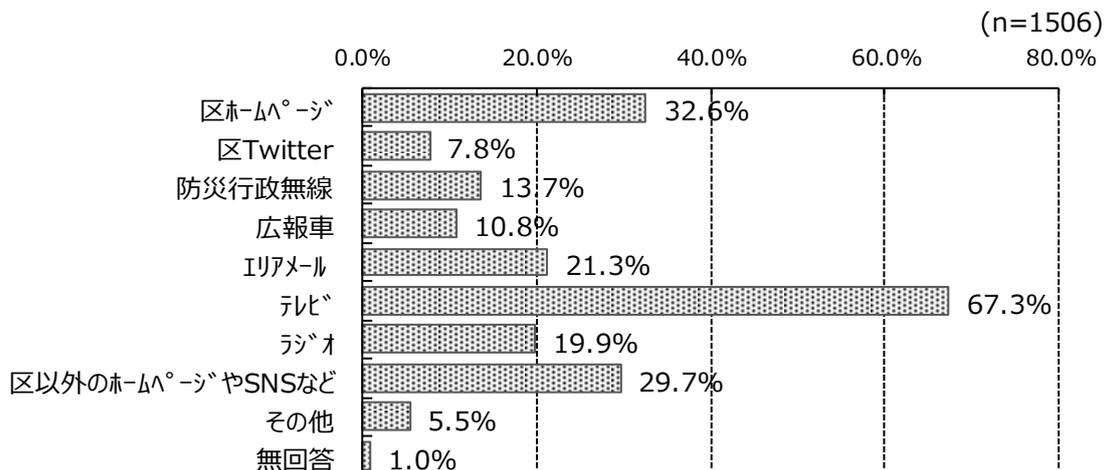
図表 23 防災訓練に参加しない理由(複数回答)



④災害情報収集の手段

災害情報を収集する手段を尋ねたところ、「テレビ」の割合が最も高く67.3%となっている。次いで、「区ホームページ(32.6%)」、「区以外のホームページやSNSなど(29.7%)」となっている。

図表 24 災害情報収集手段(複数回答)

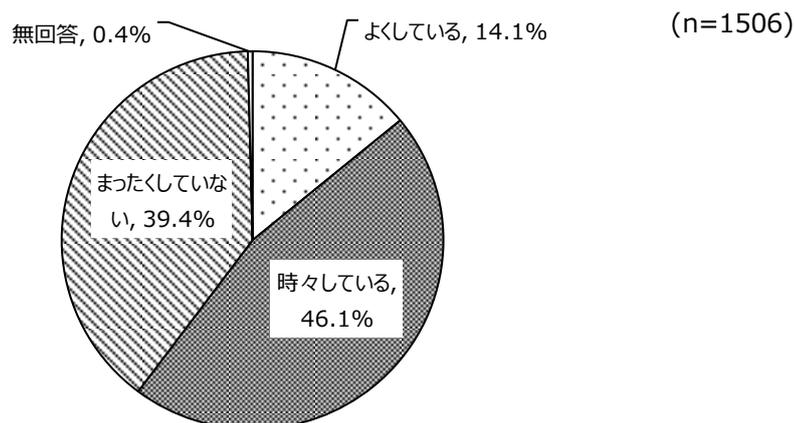


(5) 地域活動・コミュニティ

① 近所づきあいの頻度

自身や家族が近所づきあいをしているか尋ねたところ、「時々している」の割合が最も高く46.1%となっている。次いで、「まったくしていない(39.4%)」、「よくしている(14.1%)」となっている。

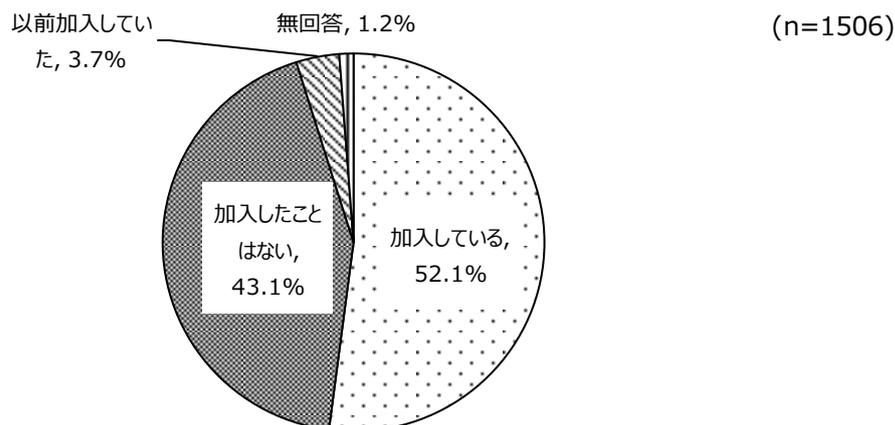
図表 25 近所づきあいの頻度 (単一回答)



② 町会・自治会への加入状況

自身や家族が町会・自治会へ加入しているか尋ねたところ、「加入している」の割合が最も高く52.1%となっている。次いで、「加入したことはない(43.1%)」、「以前加入していた(3.7%)」となっている。

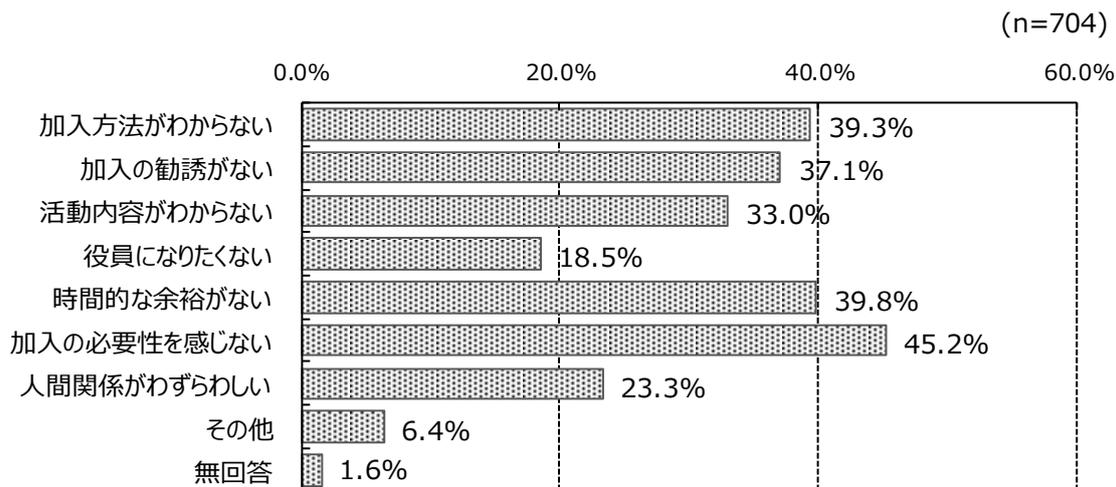
図表 26 町会・自治会への加入状況 (単一回答)



③町会・自治会に加入していない理由

町会・自治会に「加入したことはない」「以前加入していた」と回答した人に対し、町会・自治会に加入していない理由を尋ねたところ、「加入の必要性を感じない」の割合が最も高く45.2%となっている。次いで、「時間的な余裕がない(39.8%)」、「加入方法がわからない(39.3%)」となっている。

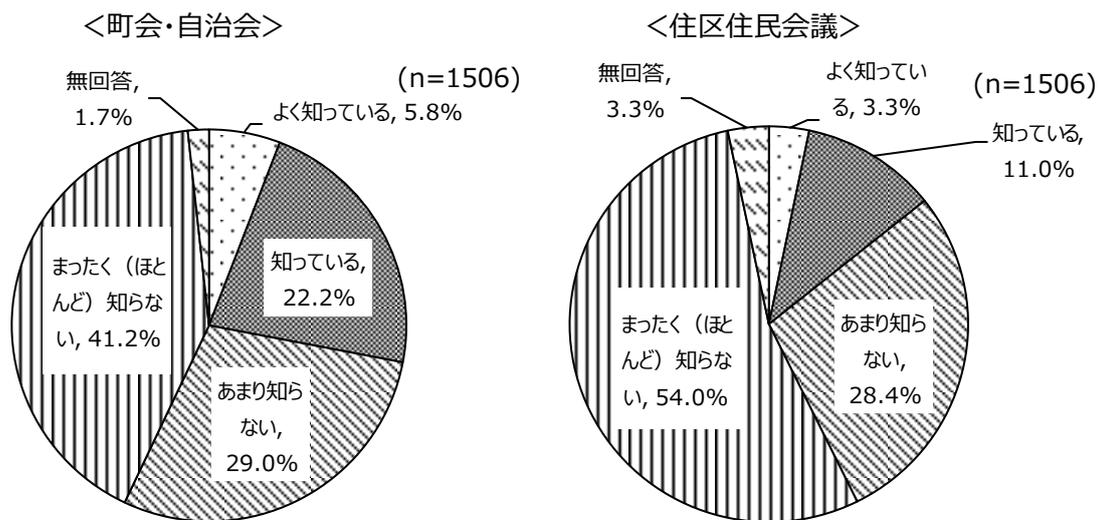
図表 27 町会・自治会に加入していない理由(複数回答)



④町会・自治会や住区住民会議が行う地域活動の認知

町会・自治会や住区住民会議が行う地域活動を知っているか尋ねたところ、町会・自治会の行う地域活動を「よく知っている」「知っている」と回答した割合をあわせて28.0%であった。住区住民会議の行う地域活動の場合は、同様の割合が14.3%であった。

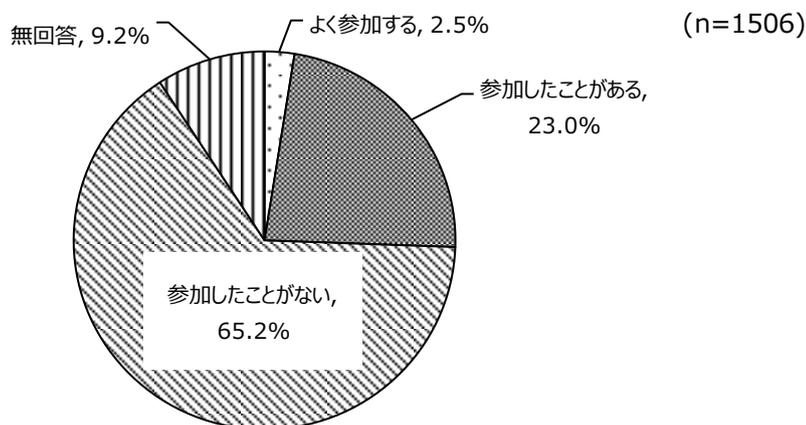
図表 28 地域活動の認知(単一回答)



⑤地域活動への参加経験

地域活動への参加経験を尋ねたところ、「参加したことがない」の割合が最も高く 65.2% となっている。次いで、「参加したことがある (23.0%)」となっている。

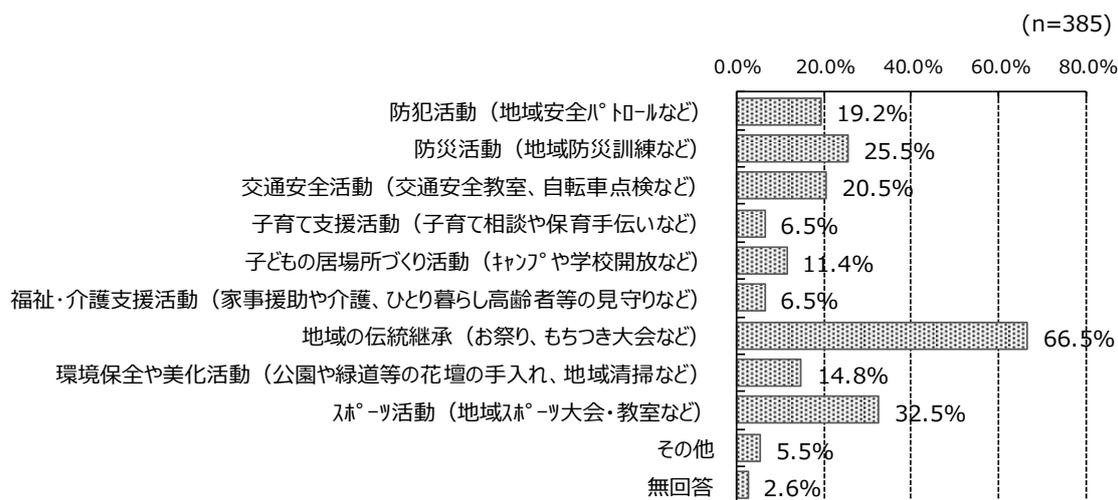
図表 29 地域活動への参加経験 (単一回答)



⑥参加したことの地域活動の分野

参加している・参加したことの地域活動の分野を尋ねたところ、「地域の伝統継承 (お祭り、もちつき大会など)」の割合が最も高く 66.5% となっている。次いで、「スポーツ活動 (地域スポーツ大会・教室など) (32.5%)」、「防災活動 (地域防災訓練など) (25.5%)」となっている。

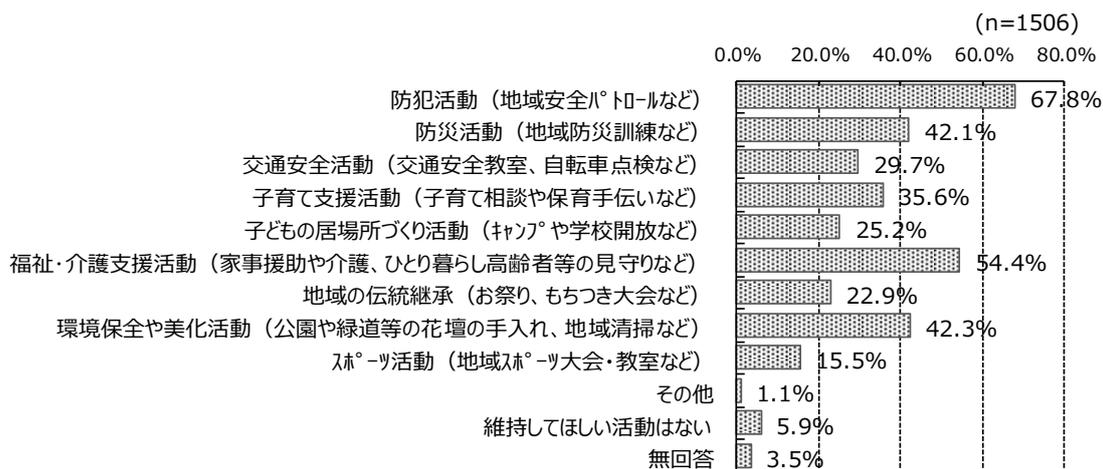
図表 30 参加したことの地域活動の分野 (複数回答)



⑦コロナ禍でも維持を希望する地域活動

コロナ禍でも活動を維持してほしい地域活動を尋ねたところ、「防犯活動（地域安全パトロールなど）」の割合が最も高く 67.8%となっている。次いで、「福祉・介護支援活動（家事援助や介護、ひとり暮らし高齢者等の見守りなど）（54.4%）」、「環境保全や美化活動（42.3%）」となっている。

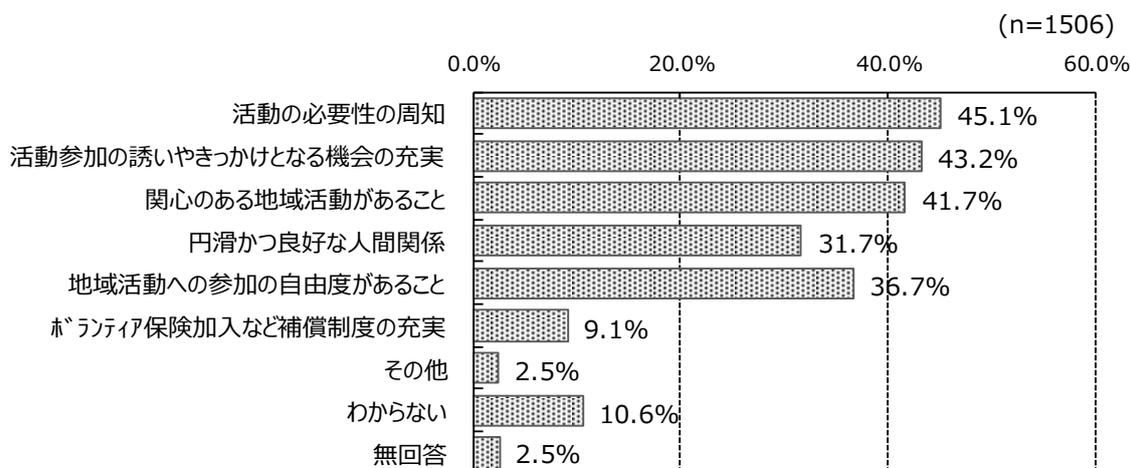
図表 31 コロナ禍でも維持してほしい地域活動（複数回答）



⑧地域活動に参加しやすくなるために必要なこと

地域活動に参加しやすくなるために必要なことを尋ねたところ、「活動の必要性の周知」の割合が最も高く 45.1%となっている。次いで、「活動参加の誘いやきっかけとなる機会の充実（43.2%）」、「関心のある地域活動があること（41.7%）」となっている。

図表 32 地域活動に参加しやすくなるために必要なこと（複数回答）

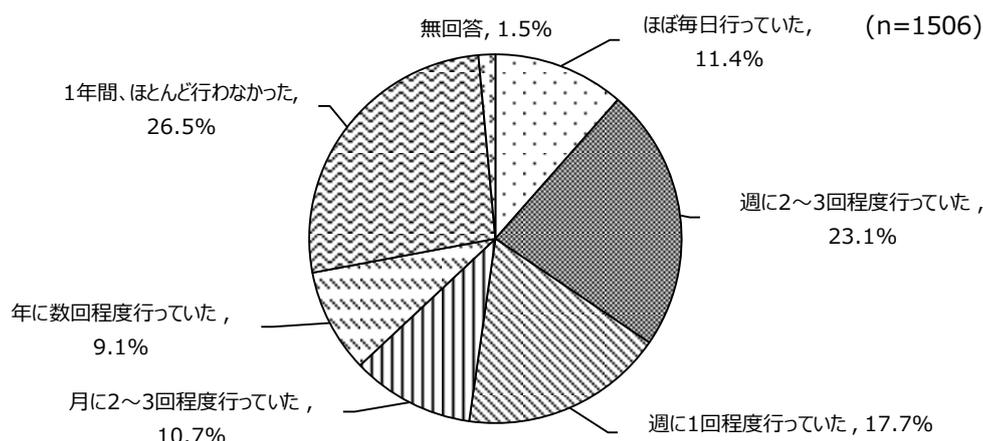


(6) 運動・スポーツ

①新型コロナウイルス感染拡大以前の運動・スポーツの頻度

新型コロナウイルス感染拡大前の1年間に、1日30分以上の運動やスポーツをどのくらい行っていたか尋ねたところ、「1年間、ほとんど行わなかった」の割合が最も高く26.5%となっている。次いで、「週に2~3回程度行っていた (23.1%)」、「週に1回程度行っていた (17.7%)」となっている。

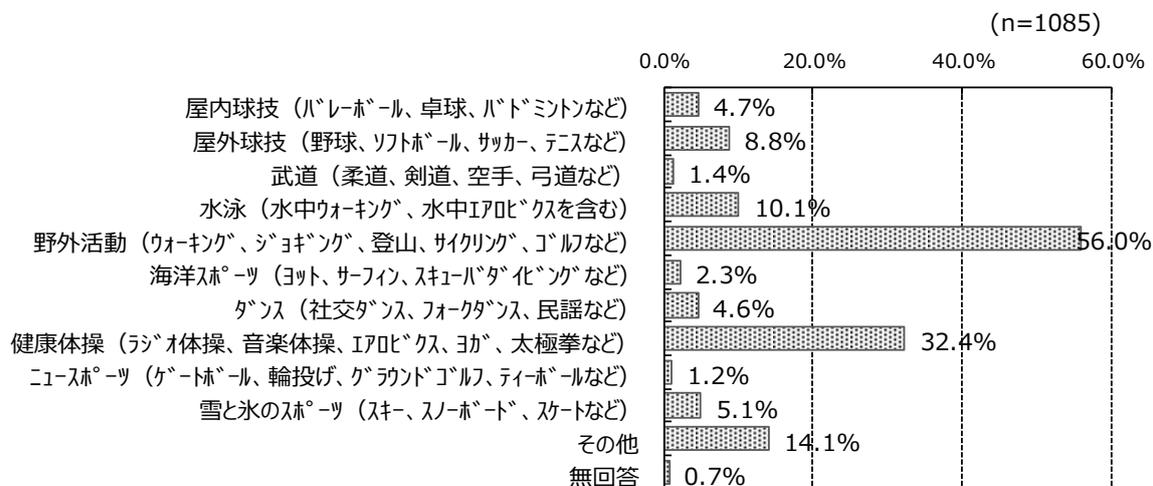
図表 33 コロナ前の運動・スポーツ頻度 (単一回答)



②新型コロナウイルス感染拡大以前に行っていた運動・スポーツの種類

新型コロナウイルス感染拡大前の1年間に行っていた運動・スポーツの種類を尋ねたところ、「野外活動 (ウォーキング、ジョギング、登山、サイクリング、ゴルフなど)」の割合が最も高く56.0%となっている。次いで、「健康体操 (ラジオ体操、音楽体操、エアロビクス、ヨガ、太極拳など) (32.4%)」、「その他 (14.1%)」となっている。

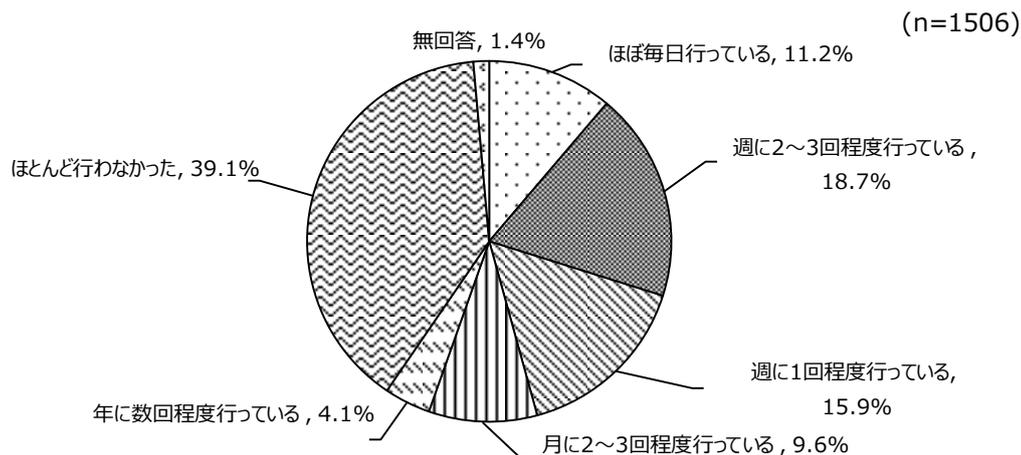
図表 34 コロナ前に行っていた運動・スポーツの種類 (複数回答)



③新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除以降のスポーツ・運動の頻度

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言解除後に、1日30分以上の運動やスポーツをどのくらい行っていたか尋ねたところ、「ほとんど行わなかった」の割合が最も高く39.1%となっている。次いで、「週に2～3回程度行っている（18.7%）」、「週に1回程度行っている（15.9%）」となっている。

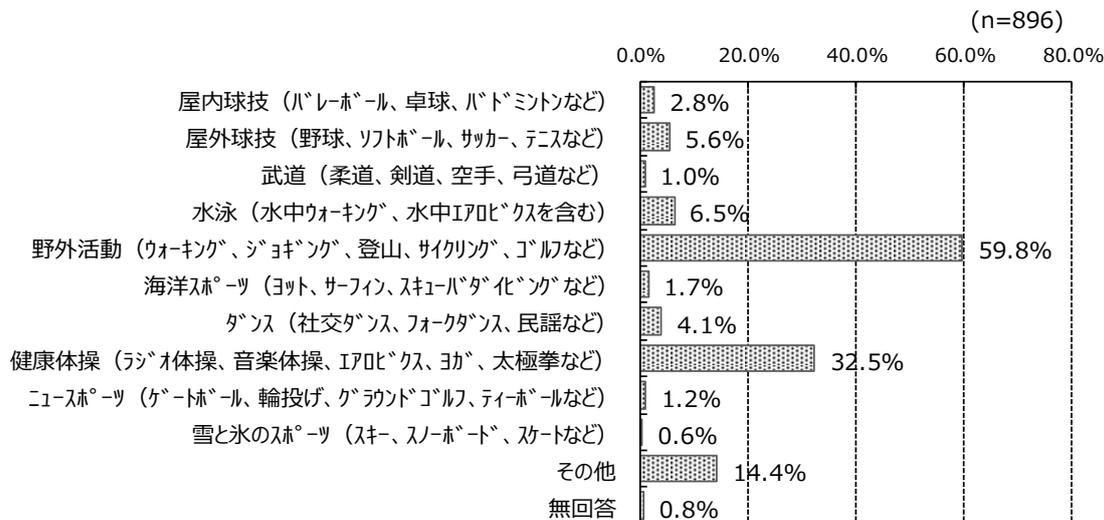
図表 35 緊急事態宣言解除後の運動・スポーツ頻度（単一回答）



④行っているスポーツ・運動の種類

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言解除後に行っていた運動・スポーツの種類を尋ねたところ、「野外活動（ウォーキング、ジョギング、登山、サイクリング、ゴルフなど）」の割合が最も高く59.8%となっている。次いで、「健康体操（ラジオ体操、音楽体操、エアロビクス、ヨガ、太極拳など）（32.5%）」、「その他（14.4%）」となっている。

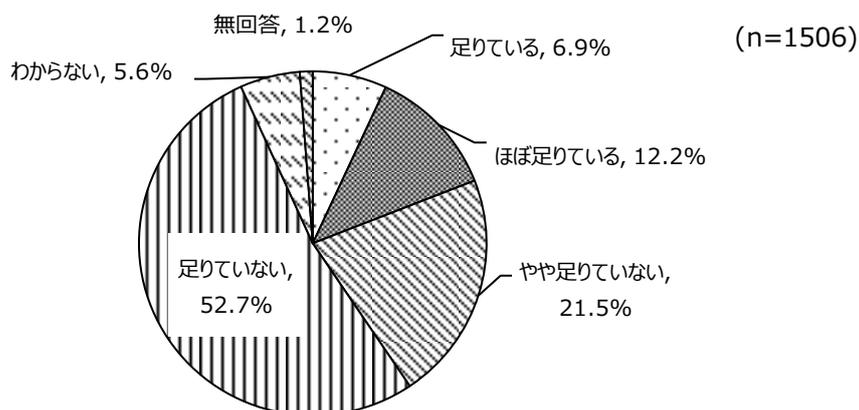
図表 36 緊急事態宣言解除後に行った運動・スポーツの種類（複数回答）



⑤新型コロナウイルス感染拡大以降の運動量

新型コロナウイルス感染拡大がはじまってからの自分の運動量をどのように思うか尋ねたところ、「足りていない」の割合が最も高く 52.7%となっている。次いで、「やや足りていない (21.5%)」、「ほぼ足りている (12.2%)」となっている。

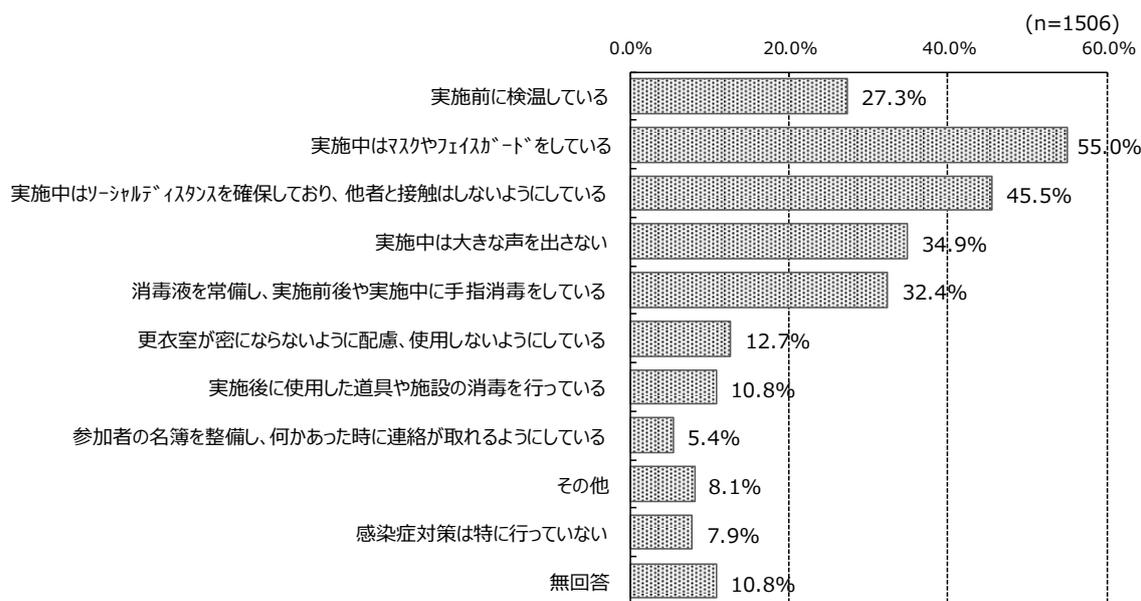
図表 37 コロナ後の運動量について (単一回答)



⑥コロナ禍におけるスポーツ・運動時の感染症対策

新型コロナ感染拡大がはじまってから、運動・スポーツを行う時にどのような感染症対策を行っているか尋ねたところ、「実施中はマスクやフェイスガードをしている」の割合が最も高く 55.0%となっている。次いで、「実施中はソーシャルディスタンスを確保しており、他者と接触はしないようにしている (45.5%)」、「実施中は大きな声を出さない (34.9%)」となっている。

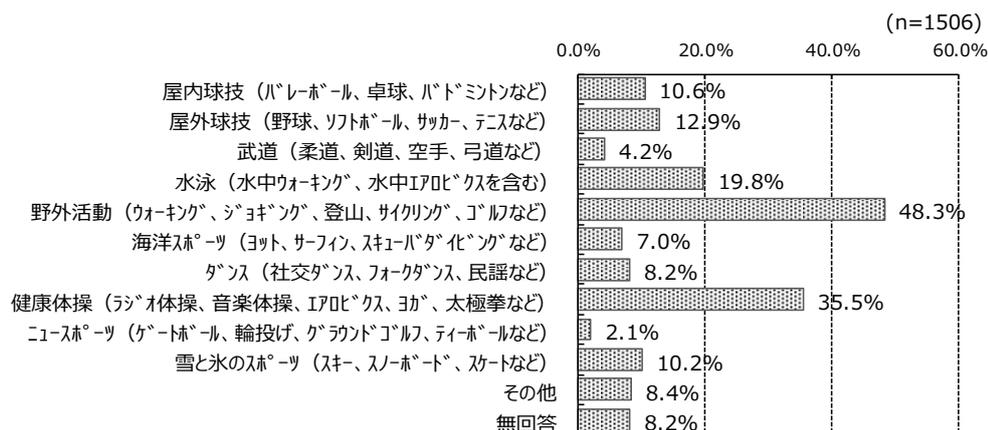
図表 38 スポーツ・運動時の感染症対策 (複数回答)



⑦今後行いたい運動・スポーツ

今後行いたい運動・スポーツを尋ねたところ、「野外活動（ウォーキング、ジョギング、登山、サイクリング、ゴルフなど）」の割合が最も高く 48.3%となっている。次いで、「健康体操（ラジオ体操、音楽体操、エアロビクス、ヨガ、太極拳など）（35.5%）」、「水泳（水中ウォーキング、水中エアロビクスを含む）（19.8%）」となっている。

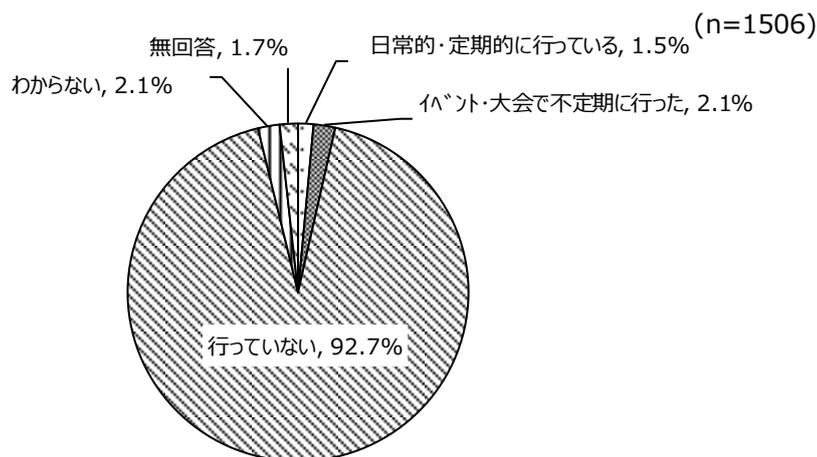
図表 39 今後行いたい運動・スポーツ（複数回答）



⑧この1年間に行ったスポーツに関するボランティア活動の頻度

この1年間に、スポーツの指導やスポーツ大会の運営など、スポーツに関するボランティア活動を行ったか尋ねたところ、「行っていない」の割合が最も高く 92.7%となっている。次いで、「イベント・大会で不定期に行った（2.1%）」、「わからない（2.1%）」となっている。

図表 40 ボランティア活動の頻度（単一回答）

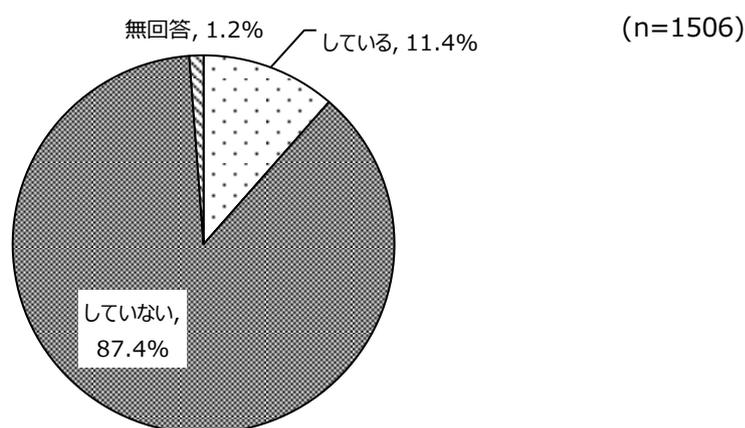


(7) 福祉・子育て

①高齢者の介護をしているか

65歳以上の高齢者（障害のある方を含む）の介護を行っているか尋ねたところ、「していない」の割合が最も高く87.4%となっている。次いで、「している（11.4%）」となっている

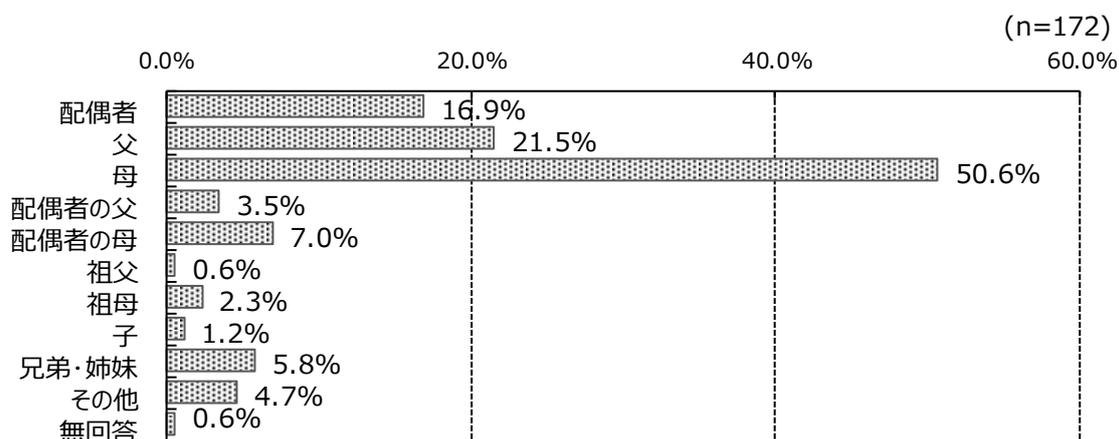
図表 41 65歳以上の高齢者の介護の有無（単一回答）



②被介護者との続柄

65歳以上の被介護者との関係性を尋ねたところ、「母」の割合が最も高く50.6%となっている。次いで、「父（21.5%）」、「配偶者（16.9%）」となっている。

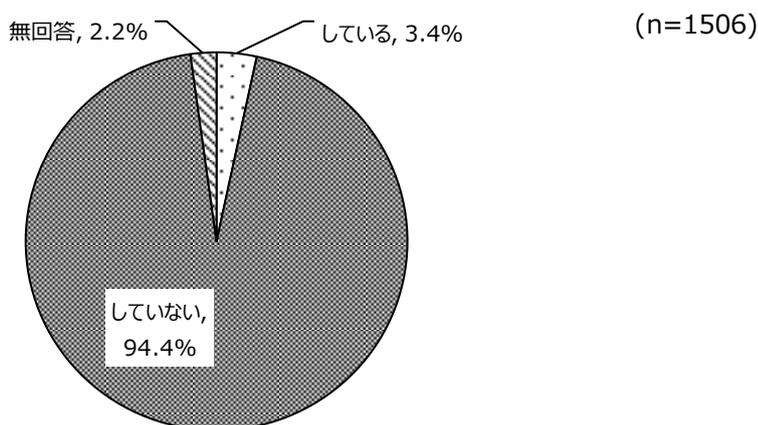
図表 42 65歳以上の被介護者との関係（複数回答）



③障害を抱える方を介護しているか（65歳以上及び小学生以下を除く）

障害のある方（65歳以上の方及び小学生以下のお子さんを除く）の介護を行っているか尋ねたところ、「していない」の割合が最も高く 94.4%となっている。次いで、「している（3.4%）」となっている。

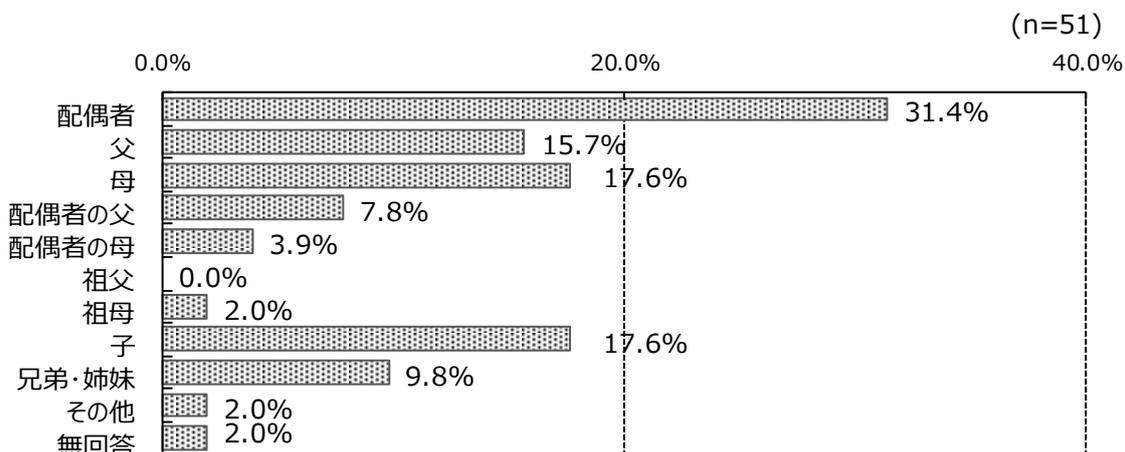
図表 43 障害を抱える方の介護の有無（単一回答）



④被介護者との続柄

障害を抱える被介護者との関係性を尋ねたところ、「配偶者」の割合が最も高く 31.4%となっている。次いで、「母（17.6%）」、「子（17.6%）」となっている。

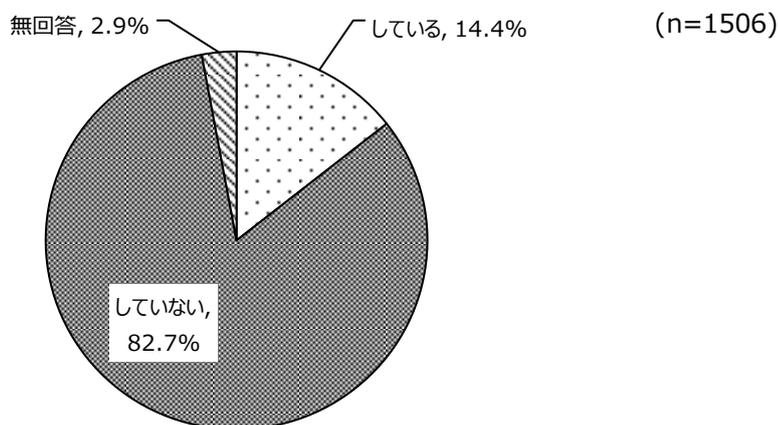
図表 44 障害を抱える被介護者との関係（複数回答）



⑤小学生以下の子どもを育児しているか

小学生以下のお子さんの育児を行っているか尋ねたところ、「していない」の割合が最も高く 82.7%となっている。次いで、「している (14.4%)」となっている。

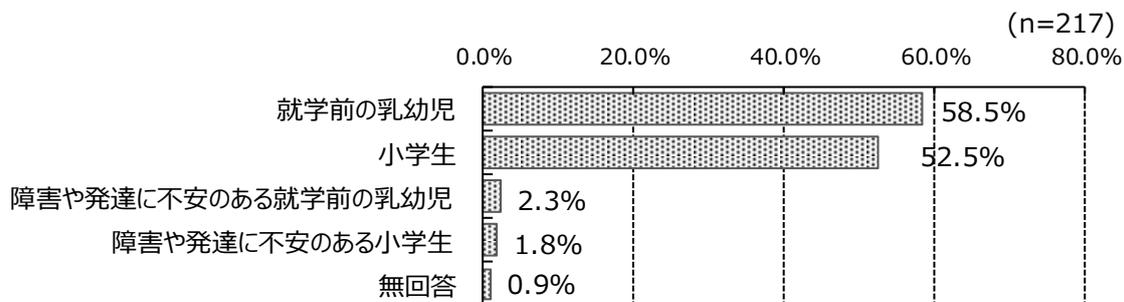
図表 45 子どもの育児の有無 (単一回答)



⑥育児中の子どもの状況

育児中のお子さんの状況について尋ねたところ、「就学前の乳幼児」の割合が最も高く 58.5%となっている。次いで、「小学生 (52.5%)」、「障害や発達に不安のある就学前の乳幼児 (2.3%)」となっている。

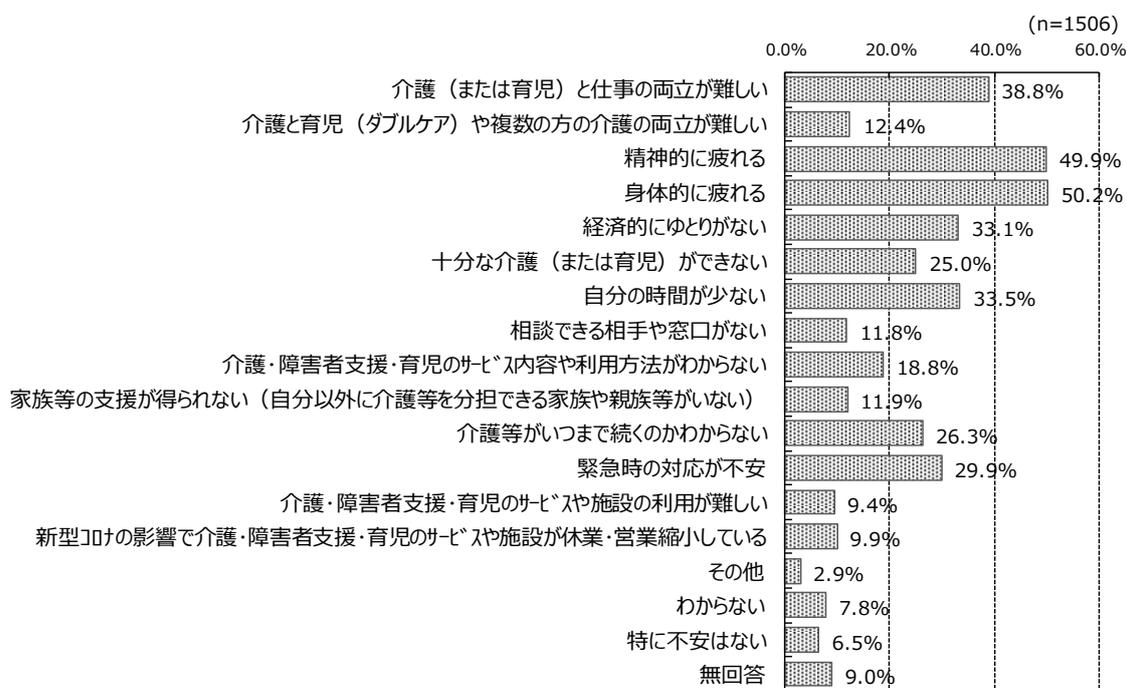
図表 46 育児中の子どもの状況 (複数回答)



⑦介護・育児をする上での懸念点・困りごと

介護や育児をするうえで不安なこと、困っていることを尋ねたところ、「身体的に疲れる」の割合が最も高く 50.2%となっている。次いで、「精神的に疲れる（49.9%）」、「介護（または育児）と仕事の両立が難しい（38.8%）」となっている。

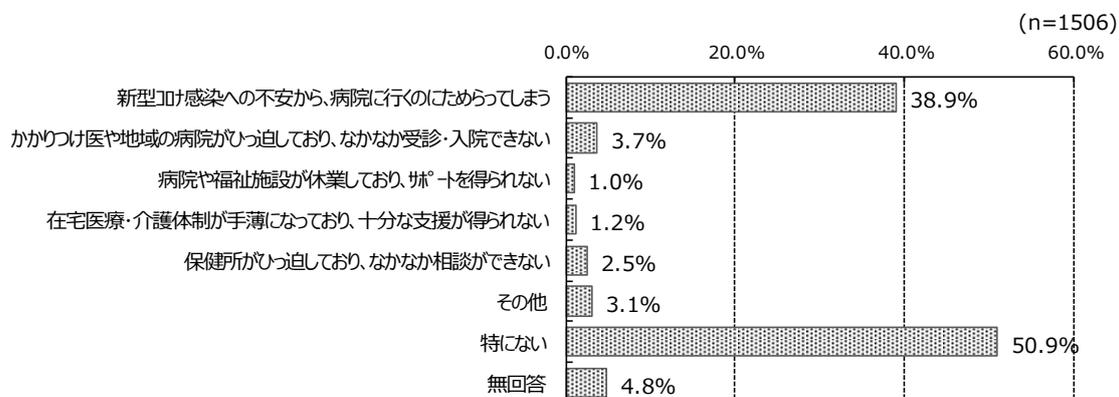
図表 47 介護・育児で困っていること（複数回答）



⑧コロナ禍における健康・福祉に関する困りごと

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、健康・福祉に関して困っていることがあるか尋ねたところ、「特にない」の割合が最も高く 50.9%となっている。次いで、「新型コロナ感染への不安から、病院に行くのにためらってしまう（38.9%）」となっている。

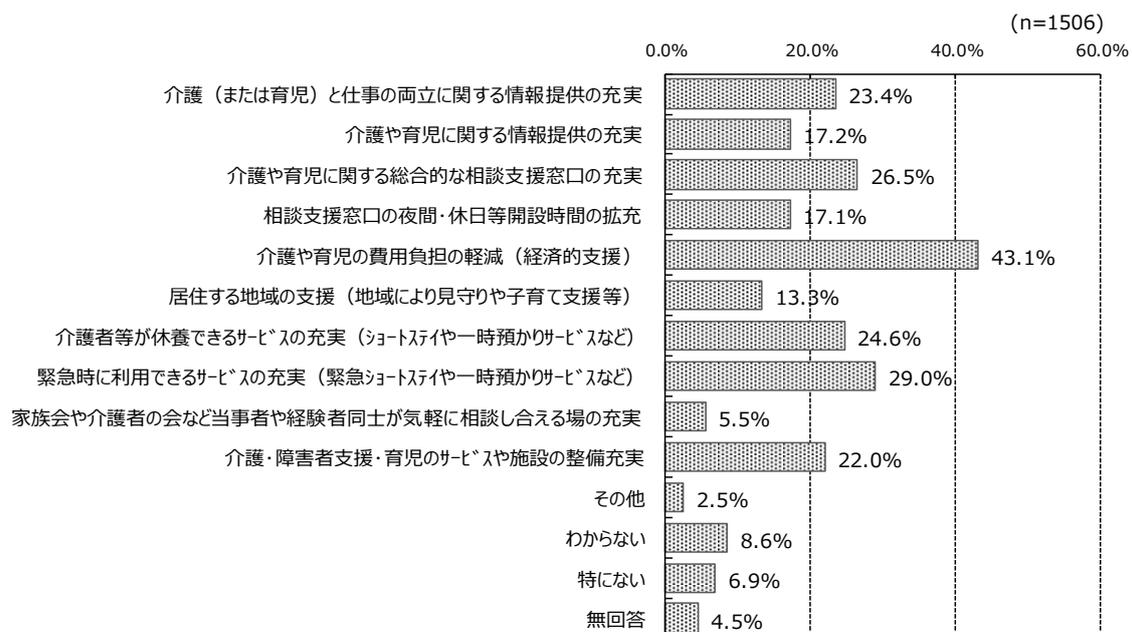
図表 48 コロナ禍の健康・福祉に関する困りごと（複数回答）



⑨安心して介護・育児に取り組むために必要な支援

安心して介護や育児を行うために必要なことを尋ねたところ、「介護や育児の費用負担の軽減（経済的支援）」の割合が最も高く 43.1%となっている。次いで、「緊急時に利用できるサービスの充実（緊急ショートステイや一時預かりサービスなど）（29.0%）」、「介護や育児に関する総合的な相談支援窓口の充実（26.5%）」となっている。

図表 49 安心して介護・育児を行うために必要な支援（複数回答：3つまで）

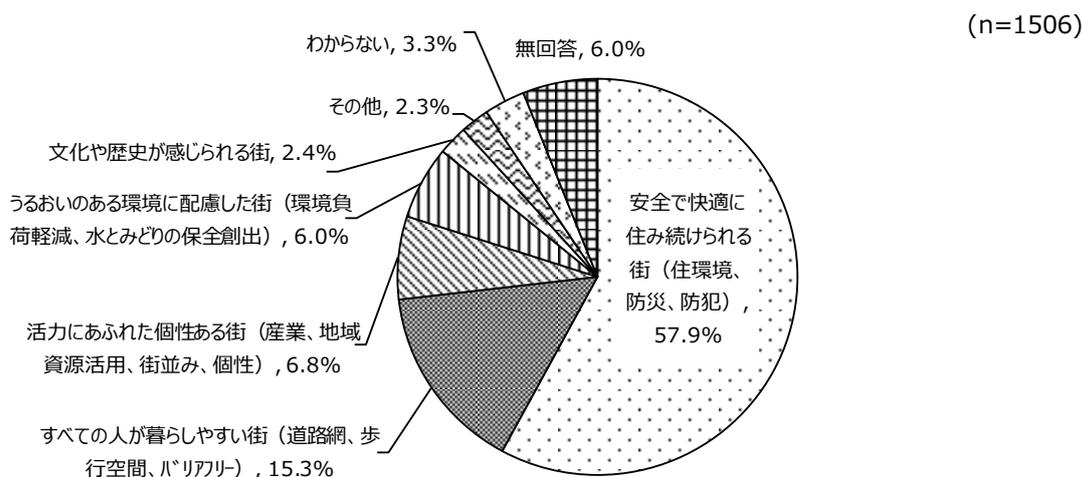


(8) 都市計画・街づくり

① 20年後の目黒区の将来の街として、最も望ましい姿

20年後の目黒区の街の姿として、望ましい姿を尋ねたところ、「安全で快適に住み続けられる街（住環境、防災、防犯）」の割合が最も高く57.9%となっている。次いで、「すべての人が暮らしやすい街（道路網、歩行空間、バリアフリー）（15.3%）」、「活力にあふれた個性ある街（産業、地域資源活用、街並み、個性）（6.8%）」となっている。

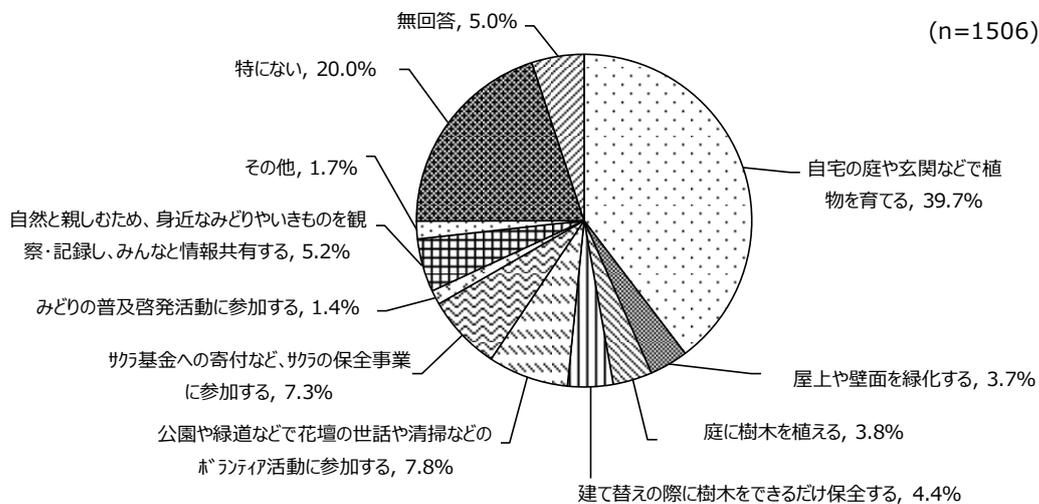
図表 50 20年後の目黒区の街の姿（複数回答：3つまで）



② みどりのまちづくりに向けて取り組みたいこと

みどりのまちづくりのために、協力できることややってみたいことがあるか尋ねたところ、「自宅の庭や玄関などで植物を育てる」の割合が最も高く39.7%となっている。次いで、「特にない（20.0%）」、「公園や緑道などで花壇の世話や清掃などのボランティア活動に参加する（7.8%）」となっている。

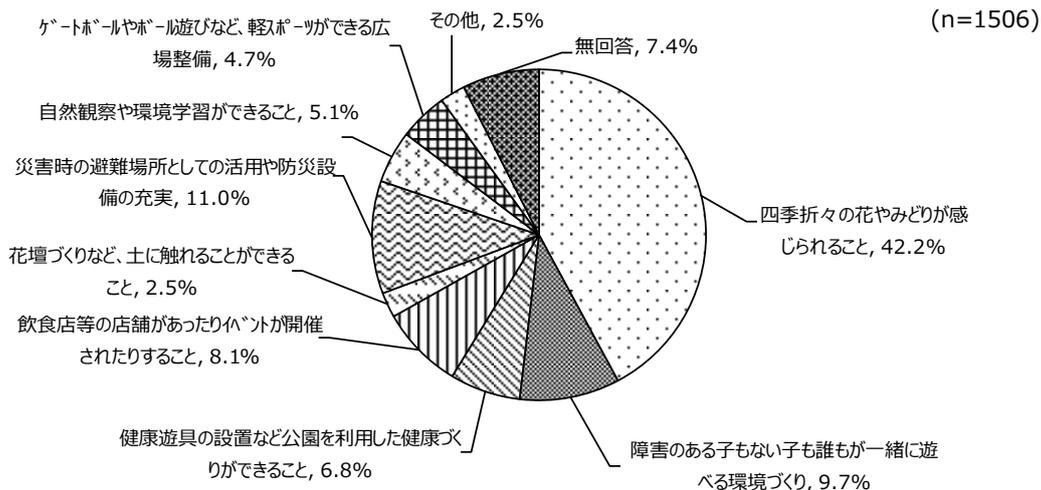
図表 51 みどりのまちづくりに向けて取り組みたいこと（単一回答）



③公園の魅力向上するのに必要だと思うこと

公園の魅力向上させるために必要だと思うことを尋ねたところ、「四季折々の花やみどりが感じられること」の割合が最も高く42.2%となっている。次いで、「災害時の避難場所としての活用や防災設備の充実（11.0%）」、「障害のある子もいない子も誰もが一緒に遊べる環境づくり（9.7%）」となっている。

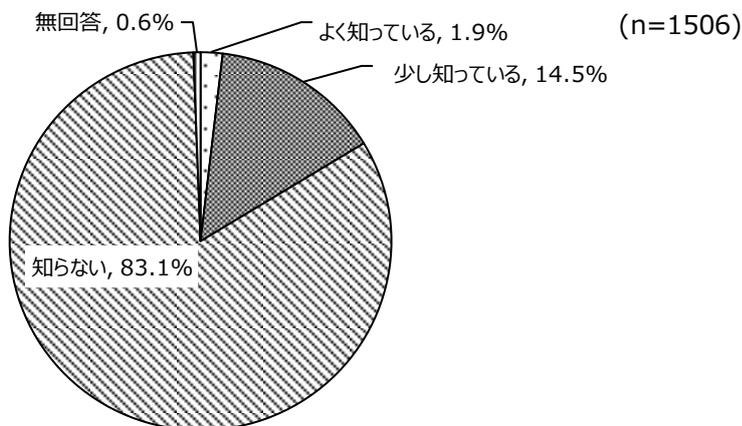
図表 52 公園の魅力向上に必要なと思うこと（単一回答）



④「目黒のサクラ基金」の認知度

「目黒区のサクラ基金」を知っているか尋ねたところ、「知らない」の割合が最も高く83.1%となっている。次いで、「少し知っている（14.5%）」、「よく知っている（1.9%）」となっている。

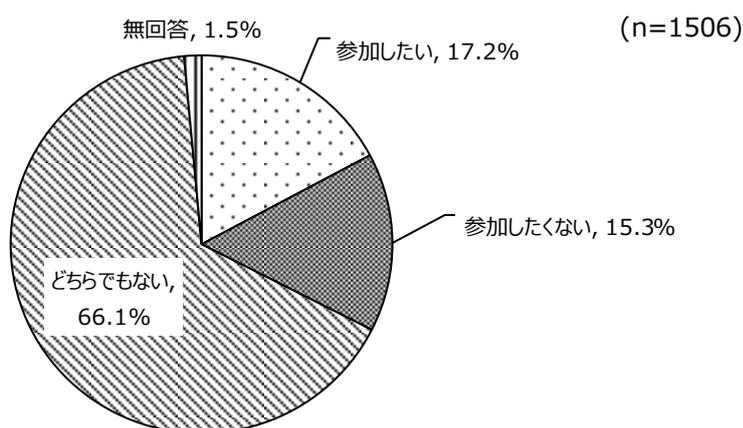
図表 53 「目黒のサクラ基金」認知度（単一回答）



⑤桜の保全活動への参加意向

地域で桜の保全活動へ参加したいか意向を尋ねたところ、「どちらでもない」の割合が最も高く 66.1%となっている。次いで、「参加したい (17.2%)」、「参加したくない (15.3%)」となっている。

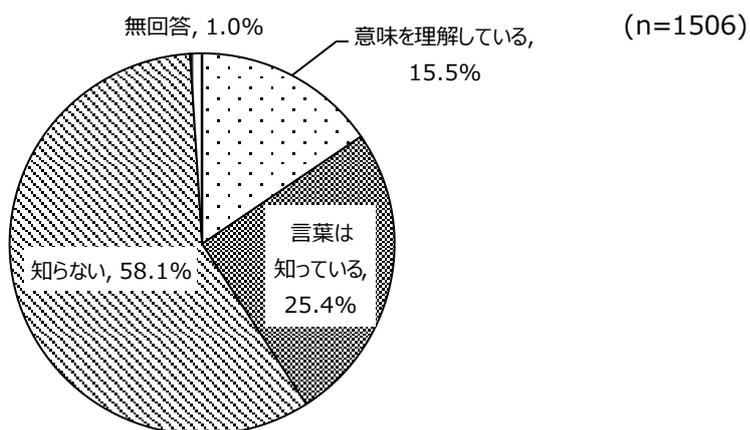
図表 54 桜の保全活動への参加意向 (単一回答)



⑥「生物多様性」の認知度

「生物多様性」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知らない」の割合が最も高く 58.1%となっている。次いで、「言葉は知っている (25.4%)」、「意味を理解している (15.5%)」となっている。

図表 55 「生物多様性」の認知度 (単一回答)

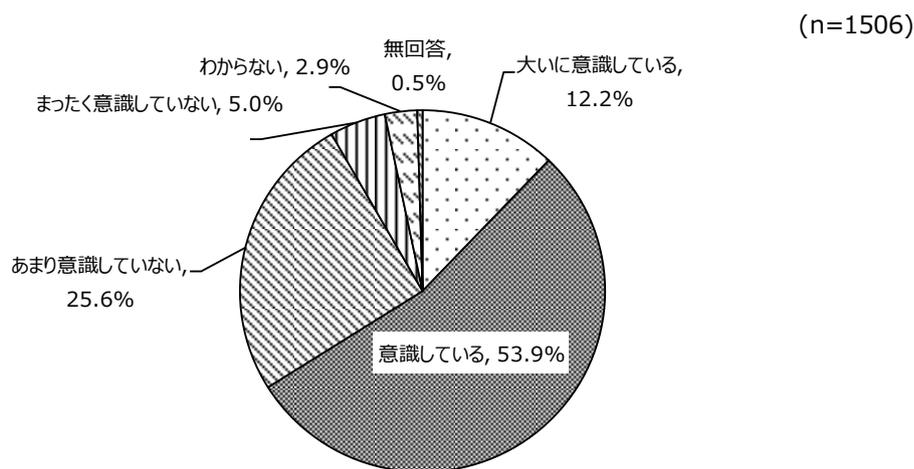


(9) 地球温暖化対策

①地球温暖化問題を意識しているか

生活の中で地球温暖化の問題を意識しているか尋ねたところ、「意識している」の割合が最も高く 53.9%となっている。次いで、「あまり意識していない (25.6%)」、「大いに意識している (12.2%)」となっている。

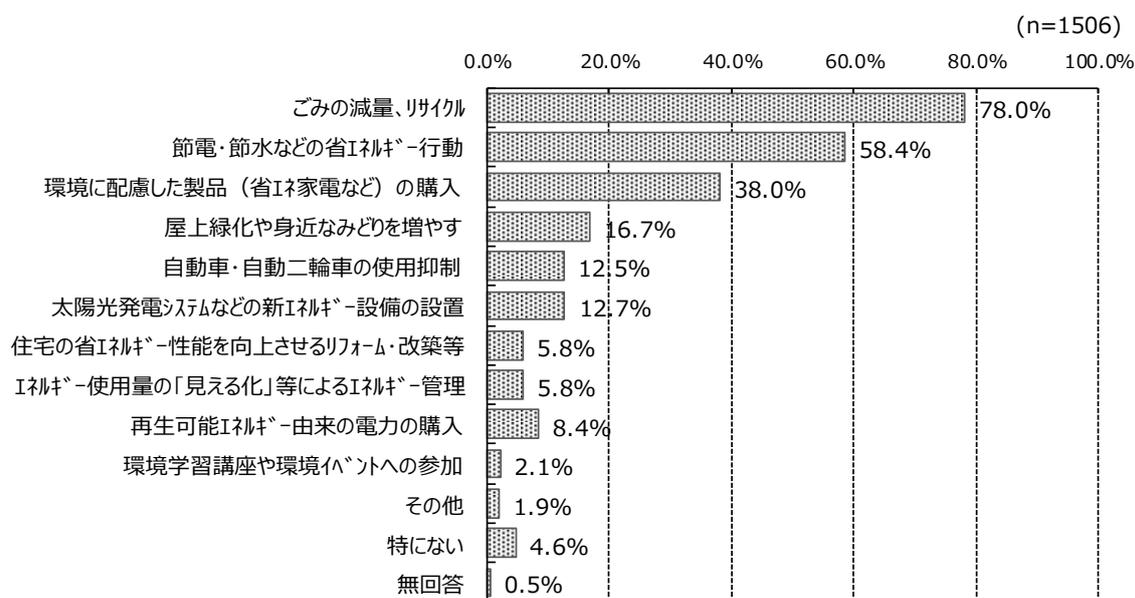
図表 56 地球温暖化問題を意識しているか (単一回答)



②地球温暖化防止のため取り組みたいこと

地球温暖化を防止するために、今後何を優先して行いたいかな尋ねたところ、「ごみの減量、リサイクル」の割合が最も高く 78.0%となっている。次いで、「節電・節水などの省エネルギー行動 (58.4%)」、「環境に配慮した製品 (省エネ家電など) の購入 (38.0%)」となっている。

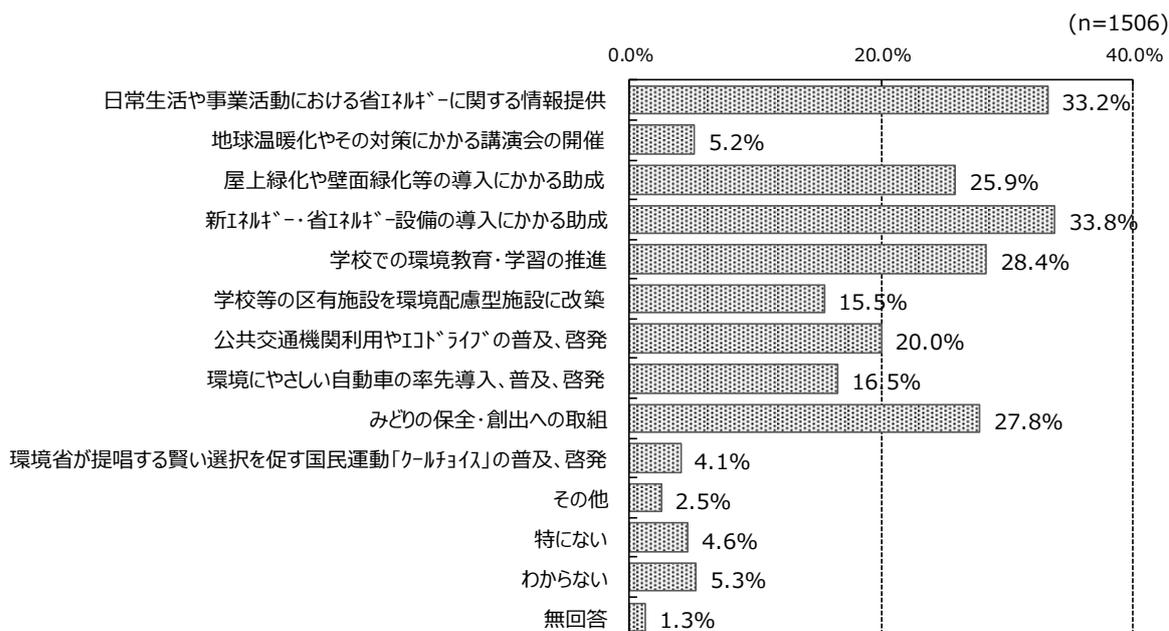
図表 57 地球温暖化防止のため取り組みたいこと (複数回答：3つまで)



③地球温暖化防止のため区に取り組んでほしいこと

地球温暖化を防止するために、区に力を入れて取り組んでほしいと思うことを尋ねたところ、「新エネルギー・省エネルギー設備の導入にかかる助成」の割合が最も高く 33.8%となっている。次いで、「日常生活や事業活動における省エネルギーに関する情報提供 (33.2%)」、「学校での環境教育・学習の推進 (28.4%)」となっている。

図表 58 地球温暖化防止のため区に取り組んでほしいこと (複数回答：3つまで)

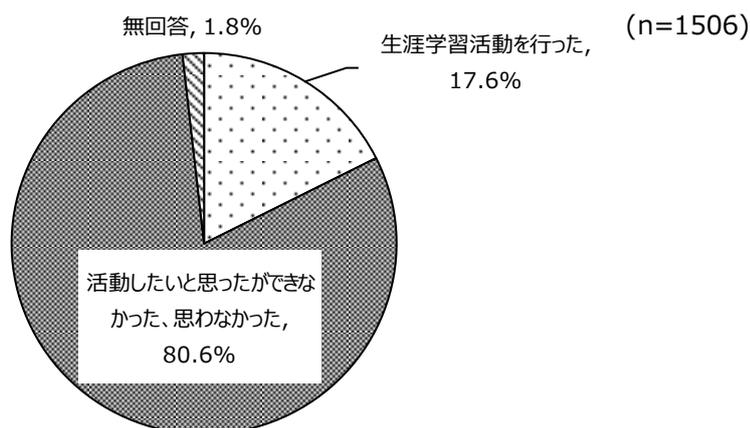


(10) 生涯学習

①新型コロナウイルス感染拡大以前の生涯学習活動

新型コロナウイルス感染拡大前の1年間に、生涯学習活動を行ったか尋ねたところ、「活動したいと思ったができなかった、思わなかった」の割合が最も高く 80.6%となっている。次いで、「生涯学習活動を行った (17.6%)」となっている。

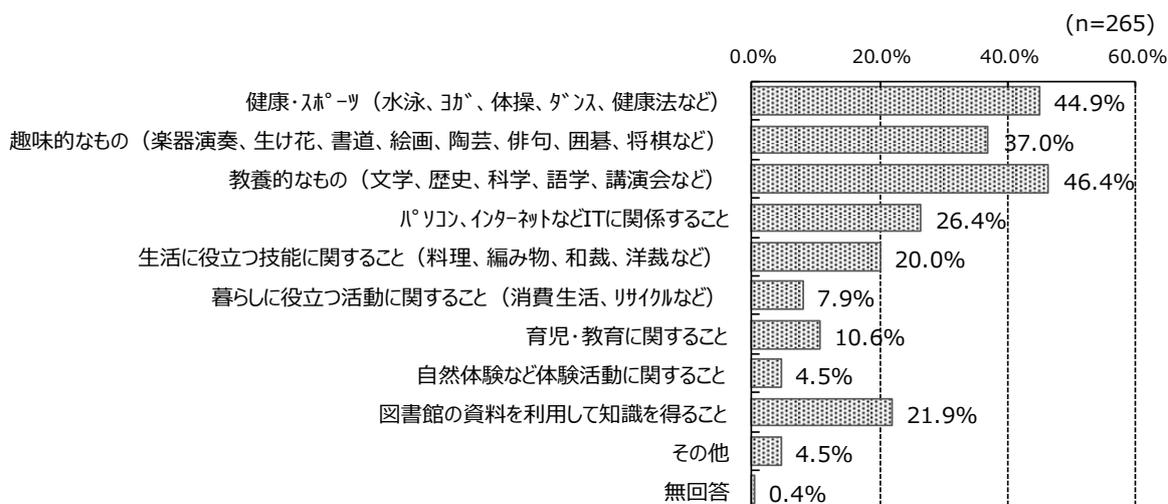
図表 59 コロナ前の生涯学習活動 (単一回答)



②新型コロナウイルス感染拡大以前の生涯学習活動の内容

新型コロナウイルス感染拡大以前に「生涯学習活動を行った」と回答した人に、その活動内容を尋ねたところ、「教養的なもの (文学、歴史、科学、語学、講演会など)」の割合が最も高く 46.4%となっている。次いで、「健康・スポーツ (水泳、ヨガ、体操、ダンス、健康法など) (44.9%)」、「趣味的なもの (楽器演奏、生け花、書道、絵画、陶芸、俳句、囲碁、将棋など) (37.0%)」となっている。

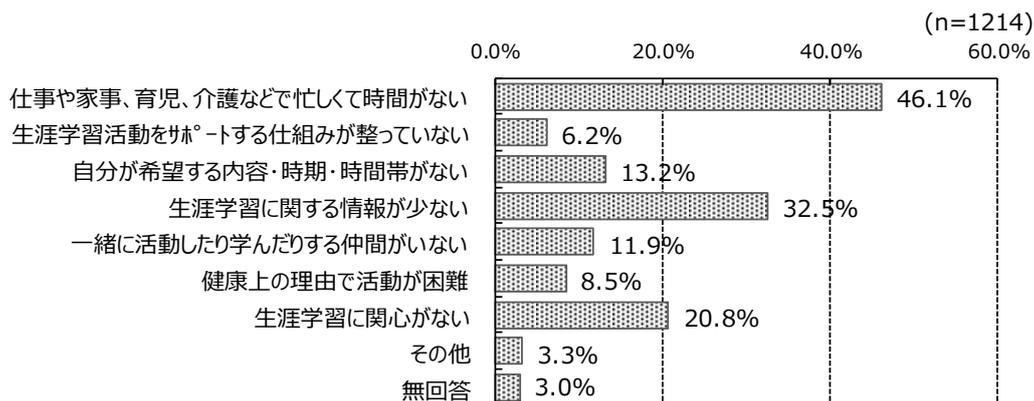
図表 60 コロナ前の生涯学習活動の内容 (複数回答)



③生涯学習活動を行わなかった理由

新型コロナウイルス感染拡大以前に「活動したいと思ったができなかった、思わなかった」と回答した人に、行わなかった理由を尋ねたところ、「仕事や家事、育児、介護などで忙しくて時間がない」の割合が最も高く 46.1%となっている。次いで、「生涯学習に関する情報が少ない (32.5%)」、「生涯学習に関心がない (20.8%)」となっている。

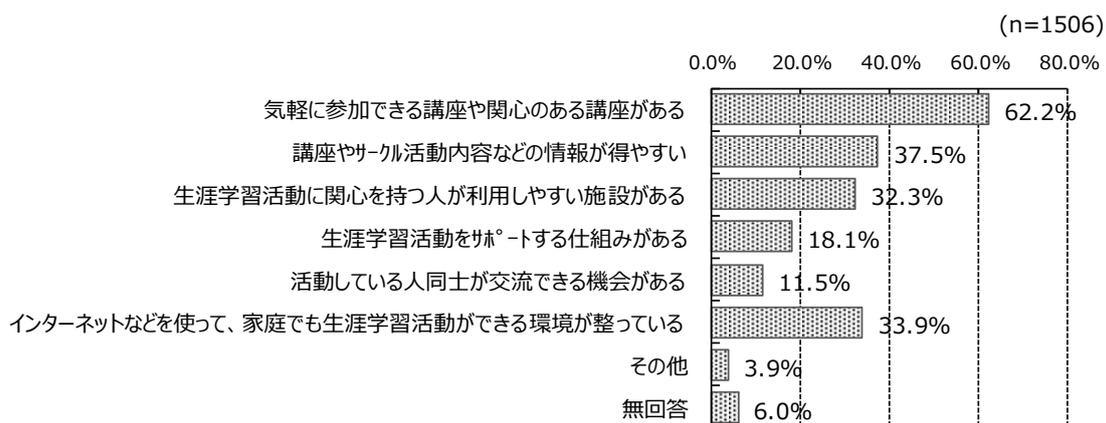
図表 61 コロナ前に生涯学習活動を行わなかった理由（複数回答）



④生涯学習推進のために必要なこと

生涯学習の推進のために必要だと思うことを尋ねたところ、「気軽に参加できる講座や関心のある講座がある」の割合が最も高く 62.2%となっている。次いで、「講座やサークル活動内容などの情報が得やすい (37.5%)」、「インターネットなどを使って、家庭でも生涯学習活動ができる環境が整っている (33.9%)」となっている。

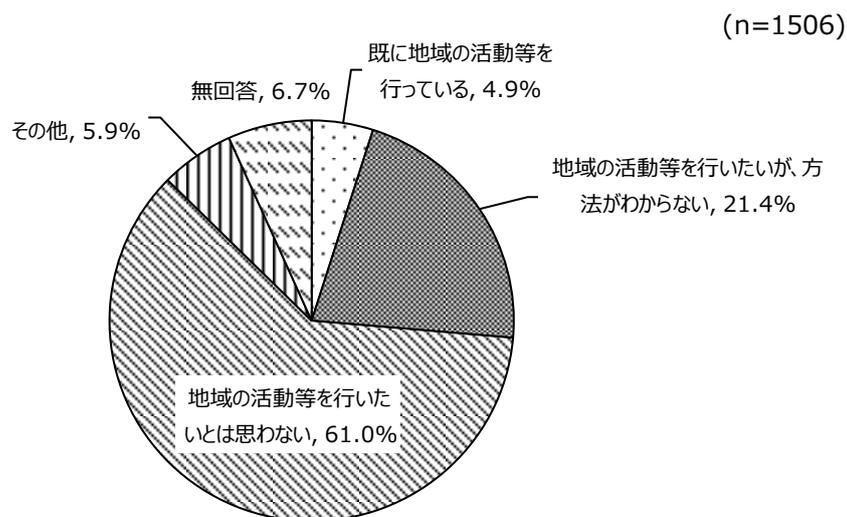
図表 62 生涯学習活動の推進のための必要なこと（複数回答：3つまで）



⑤新型コロナウイルス感染拡大前の知識や経験を活かした地域の活動等

新型コロナウイルス感染拡大前の1年間に、これまで学校や社会で得た知識や経験を生かした地域の活動等（例：福祉施設でギターのコンサートを行う、児童館でベーゴマや編み物を教える等）を行っていたか尋ねたところ、「地域の活動等を行いたいとは思わない」の割合が最も高く61.0%となっている。次いで、「地域の活動等を行いたい、方法がわからない（21.4%）」となっている。

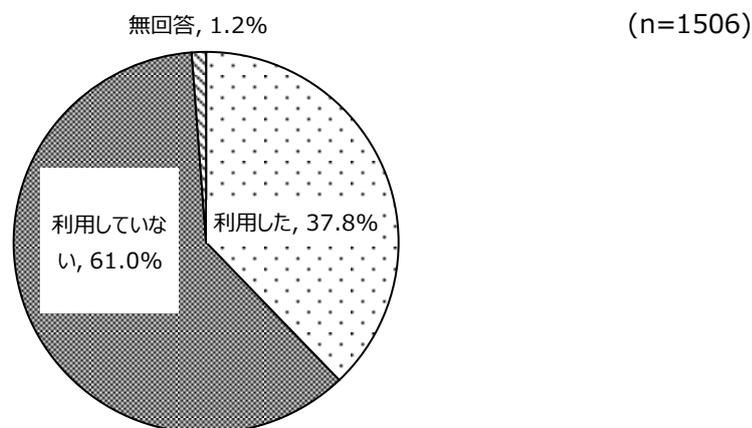
図表 63 コロナ前の知識や経験を活かした地域の活動（単一回答）



⑥過去1年間に区立図書館を利用したか

過去1年間に、目黒区立の図書館を利用したか尋ねたところ、「利用していない」の割合が最も高く61.0%となっている。次いで、「利用した（37.8%）」となっている。

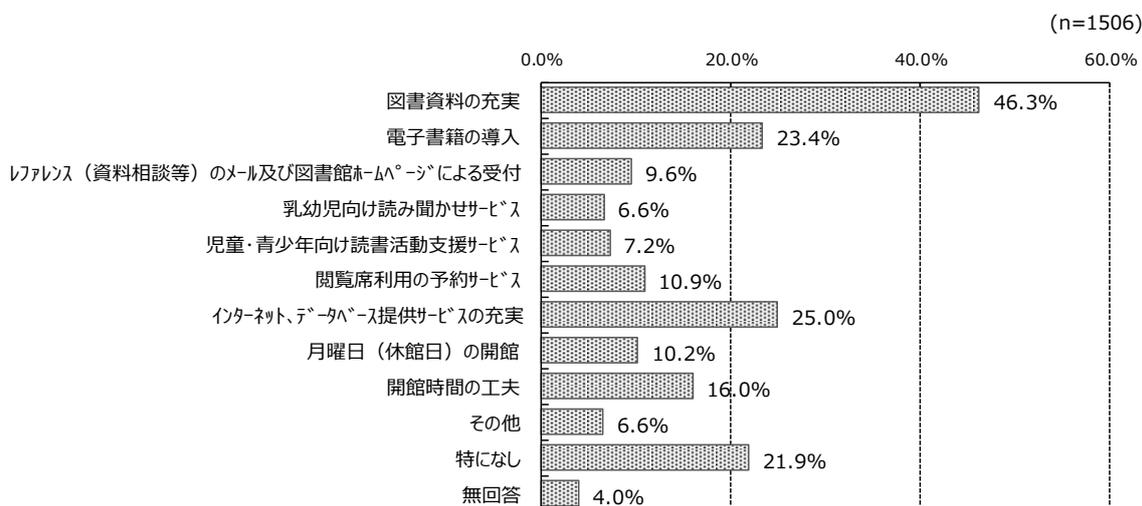
図表 64 目黒区立図書館の利用有無（単一回答）



⑦区立図書館に期待するサービス

今後の区立図書館に期待するサービスを尋ねたところ、「図書資料の充実」の割合が最も高く 46.3%となっている。次いで、「インターネット、データベース提供サービスの充実 (25.0%)」、「電子書籍の導入 (23.4%)」となっている。

図表 65 区立図書館に期待するサービス (複数回答)

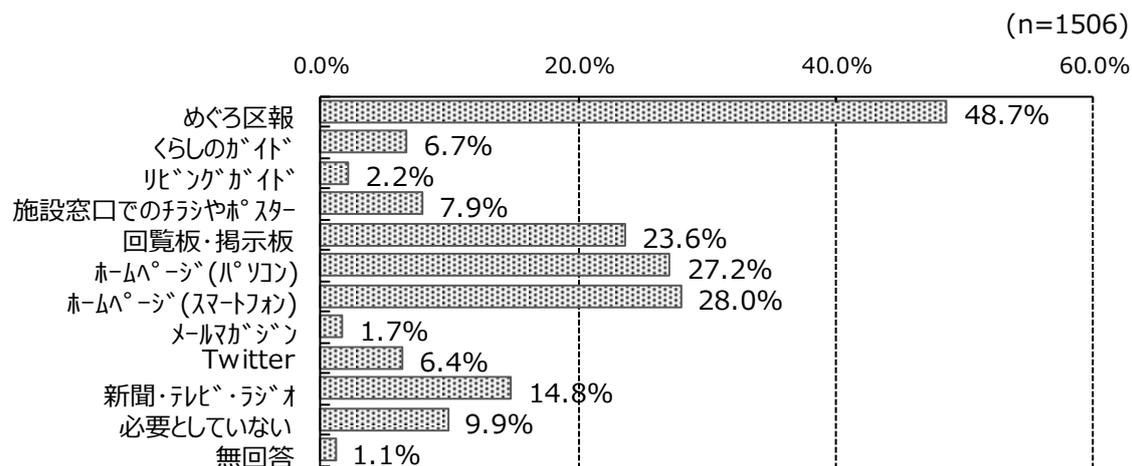


(11) 広報・ホームページ

①区の情報入手するための手段

日頃必要とする区の情報やお知らせを、どのように入手しているか尋ねたところ、「めぐろ区報」の割合が最も高く 48.7%となっている。次いで、「ホームページ (スマートフォン) (28.0%)」、「ホームページ (パソコン) (27.2%)」となっている。

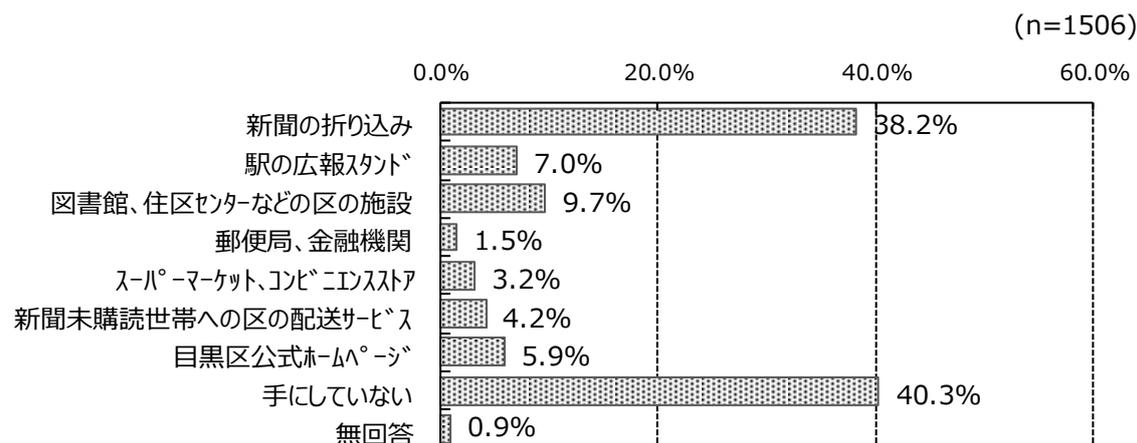
図表 66 区の情報入手するための手段 (複数回答)



②広報紙「めぐろ区報」の入手場所

広報紙「めぐろ区報」を入手する場所を尋ねたところ、「手にしていない」の割合が最も高く 40.3%となっている。次いで、「新聞の折り込み (38.2%)」、「図書館、住区センターなどの区の施設 (9.7%)」となっている。

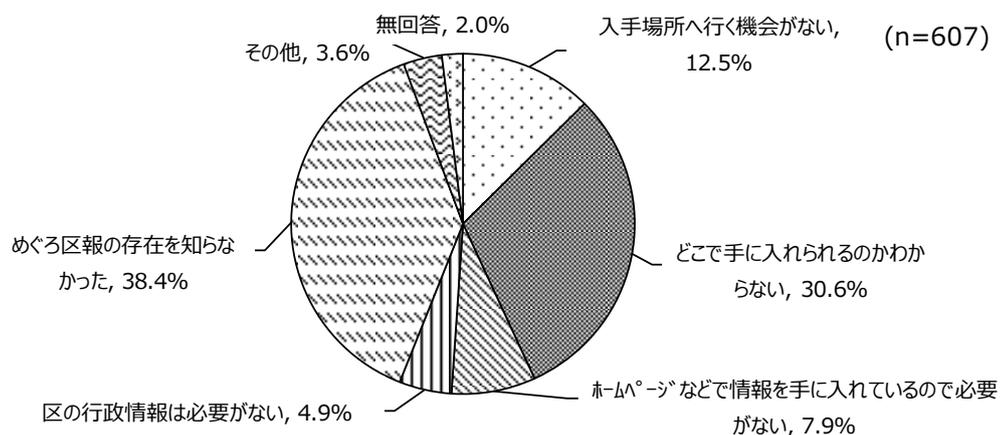
図表 67 広報誌「めぐろ区報」の入手場所 (複数回答：2つまで)



③「めぐろ区報」を入手しない理由

「めぐろ区報」を「手にしていない」と回答した人に理由を尋ねたところ、「めぐろ区報の存在を知らなかった」の割合が最も高く 38.4%となっている。次いで、「どこで手に入れられるのかわからない (30.6%)」、「入手場所へ行く機会がない (12.5%)」となっている。

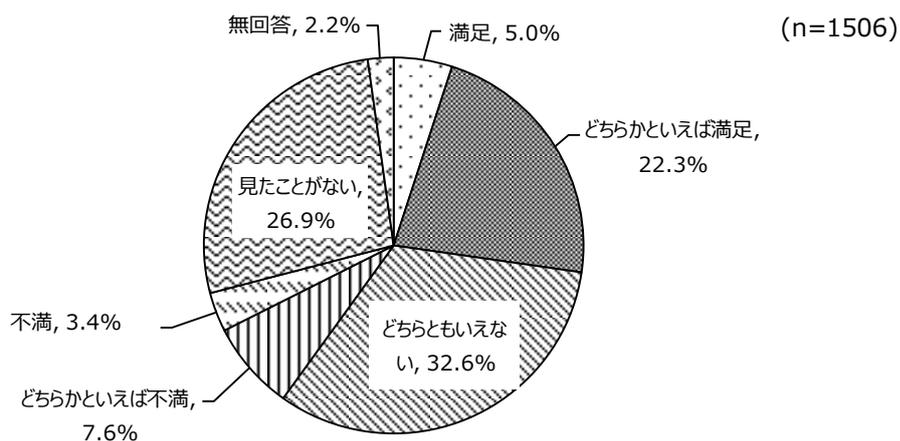
図表 68 「めぐろ区報」を入手しない理由 (単一回答)



④目黒区公式ホームページへの満足度

目黒区ホームページへの満足度を尋ねたところ、「どちらともいえない」の割合が最も高く 32.6%となっている。次いで、「見たことがない(26.9%)」、「どちらかといえば満足(22.3%)」となっている。

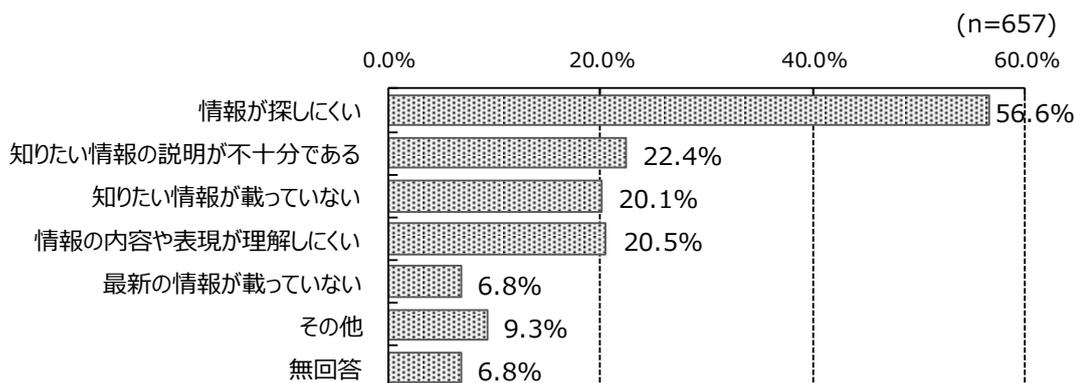
図表 69 目黒区ホームページへの満足度 (単一回答)



⑤目黒区公式ホームページに満足できない理由

目黒区ホームページに「不満」「どちらかと言えば不満」「どちらともいえない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「情報が探しにくい」の割合が最も高く 56.6%となっている。次いで、「知りたい情報の説明が不十分である（22.4%）」、「情報の内容や表現が理解しにくい（20.5%）」となっている。

図表 70 目黒区ホームページに満足できない理由（複数回答）



⑥目黒区公式ホームページの利便性向上に必要なこと

目黒区ホームページの利便性向上のために必要なことを尋ねた自由回答では、下記のような回答が得られた。

図表 71 目黒区ホームページ利便性向上のために必要なこと（一部抜粋、編集）

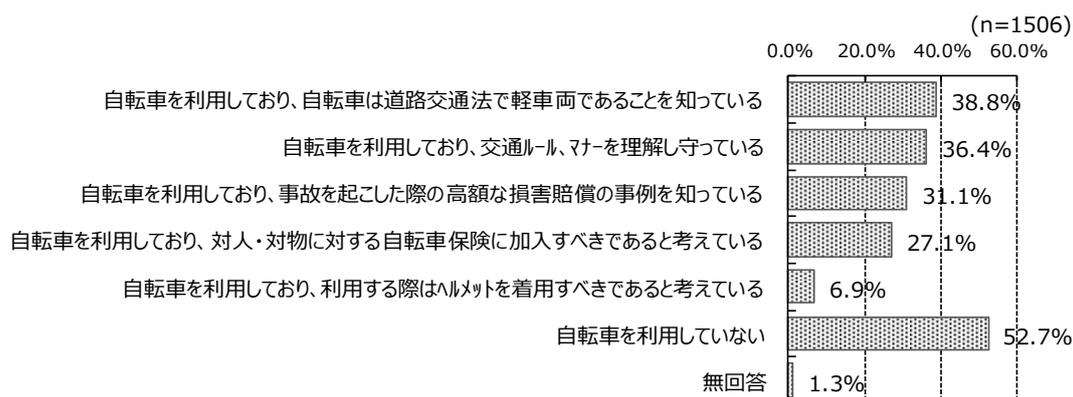
<p><視認性について></p> <ul style="list-style-type: none"> HPのUI、デザインが古く、アクセスしたいと思わない スマートフォンで閲覧した際にもっと見やすくしてほしい。 デザインが地味で、旗の色と合わせているんだらうけど紫ばかりで単調すぎるので目を引きにくい。 サイトマップや見出し、検索（ページ内）をもっと分かりやすくしてほしい。 <p><検索性について></p> <ul style="list-style-type: none"> ページの深くまで入り込まないと、目的の情報にたどり着けない。 キーワード検索をもっと充実させてほしい。 情報が全て横並びなので、時期や緊急度に応じて今知りたい情報がもう少し見えやすいと良い（コロナ情報、保育園情報など）。 子育て世代へのサポート／一人暮らし／経営者など目的別にわかる内容にする。 部局縦割りのサイト構成になっているように思い、わかりにくい。 関連情報の一元化が必要。例えば住区センターの予約の際に、料金、部屋の内覧画像、設備などの情報が一つにまとまっておらず、予約しにくかった。 <p><分かりやすさについて></p> <ul style="list-style-type: none"> 内容や説明文も専門的な言葉や難しい行政的表現が多く見られ理解が難しい場合があり、結局窓口へ行く事になり窓口業務の負担が減らないのではないか。 文字情報が多い。さらにその文字情報の内容も、役所独特の言葉なのか漢字の羅列が多く、分かりにくい表現が多い。 <p style="text-align: right;">等</p>

(12) 自転車の安全利用について

① 自転車の安全利用

自転車を安全に利用しているか尋ねたところ、「自転車を利用していない」という割合が最も高く 52.7%となっている。次いで、「自転車を利用しており、自転車は道路交通法で軽車両であることを知っている (38.8%)」、「自転車を利用しており、交通ルール、マナーを理解し守っている (36.4%)」、「自転車を利用しており、事故を起こした際の高額な損害賠償の事例を知っている (31.1%)」、「自転車を利用しており、対人・対物に対する自転車保険に加入すべきであると考えている (27.1%)」、「自転車を利用しており、利用する際はヘルメットを着用すべきであると考えている (6.9%)」となっている。

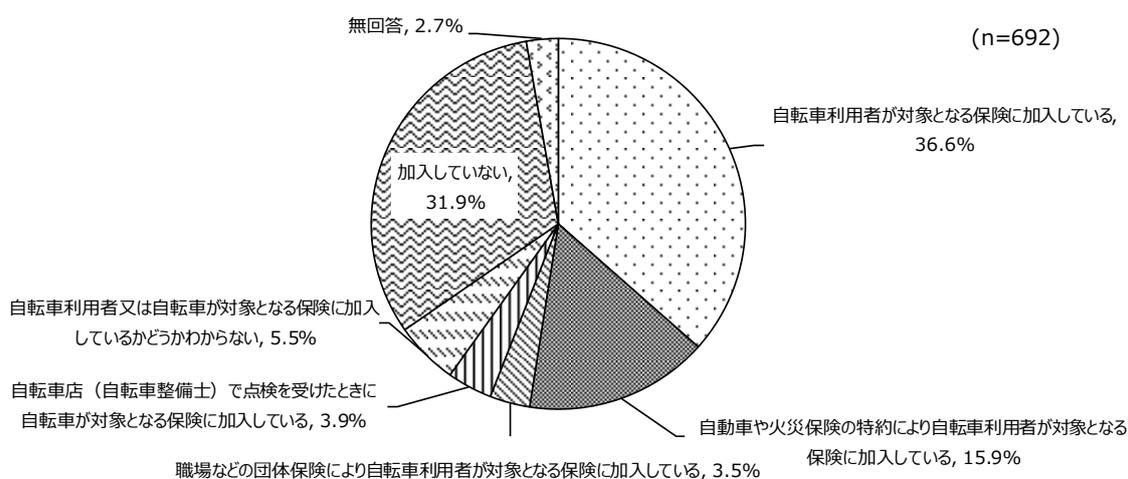
図表 72 自転車の安全利用 (複数回答)



② 自転車保険への加入状況

「自転車を利用していない」と回答した人以外に、自転車保険への加入状況を尋ねたところ、「自転車利用者が対象となる保険に加入している」の割合が最も高く 36.6%となっている。次いで、「加入していない (31.9%)」、「自動車や火災保険の特約により自転車利用者が対象となる保険に加入している (15.9%)」となっている。

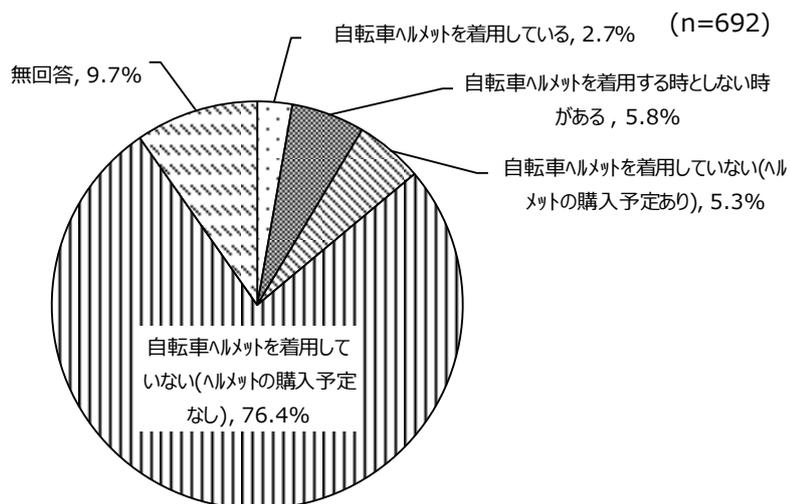
図表 73 自転車保険への加入状況 (単一回答)



③自転車利用時のヘルメット着用

自転車を利用する際にヘルメットを着用しているか尋ねたところ、「自転車ヘルメットを着用していない（ヘルメットの購入予定なし）」の割合が最も高く76.4%となっている。次いで、「自転車ヘルメットを着用する時としない時がある（5.8%）」となっている。

図表 74 自転車利用時のヘルメット着用（単一回答）

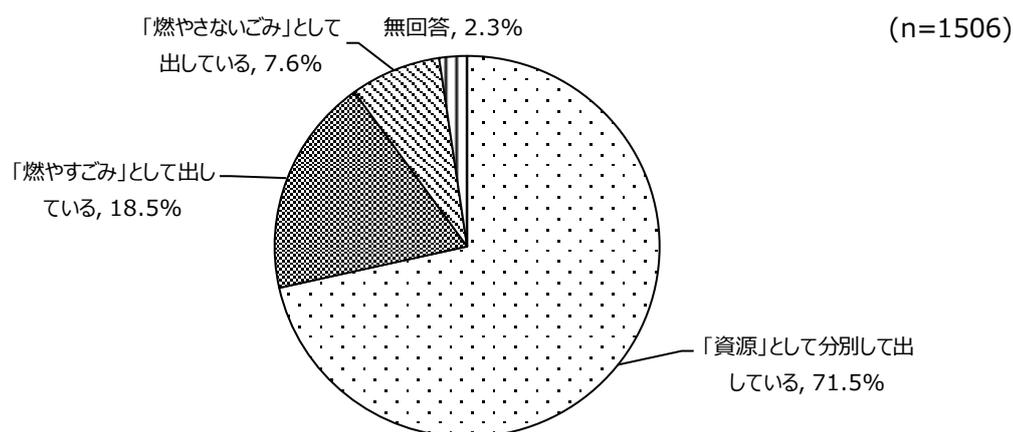


(13) プラスチック資源の分別

① プラ容器等の処分方法

ごみを出すとき、プラスチック製の容器や包装（プラマークのあるもの、以降「プラ容器等」という）をどのように処分しているか尋ねたところ、「『資源』として分別して出している」の割合が最も高く 71.5%となっている。次いで、「『燃やすごみ』として出している（18.5%）」、「『燃やさないごみ』として出している（7.6%）」となっている。

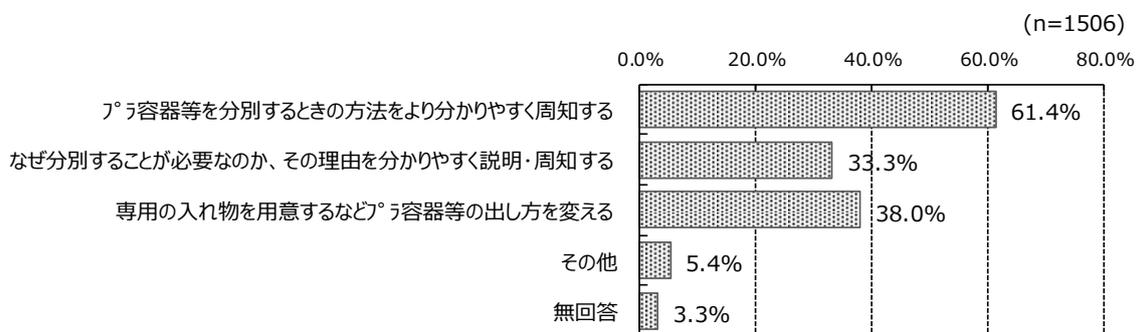
図表 75 プラ容器等の処分方法（単一回答）



② プラ容器等を資源として分別しやすくする方法

プラ容器等を資源として分別しやすくするための方法について尋ねたところ、「プラ容器等を分別するときの方法をより分かりやすく周知する」の割合が最も高く 61.4%となっている。次いで、「専用の入れ物を用意するなどプラ容器等の出し方を変える（38.0%）」、「なぜ分別することが必要なのか、その理由を分かりやすく説明・周知する（33.3%）」となっている。

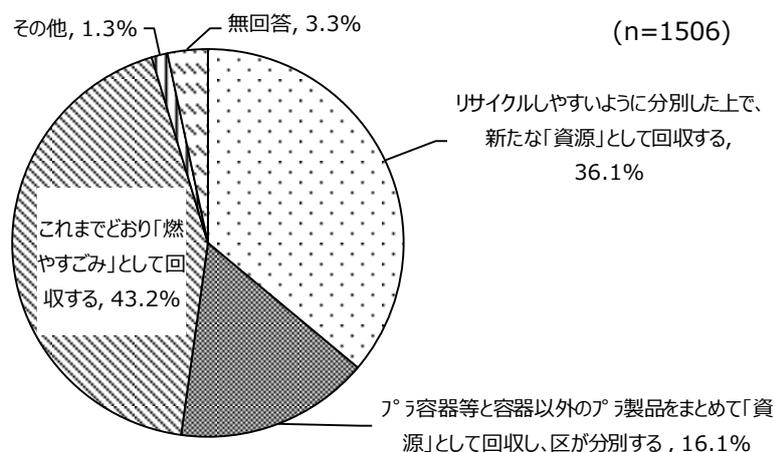
図表 76 プラ容器等を資源として分別しやすくする方法（複数回答）



③ プラ容器等以外のプラスチック製品の望ましい回収方法

プラ容器等以外のプラスチック製品（文房具、日用品、おもちゃなど）を現在は「燃やすごみ」として回収しているが、どのような回収方法が望ましいと思うか尋ねたところ、「これまでどおり『燃やすごみ』として回収する」の割合が最も高く 43.2%となっている。次いで、「リサイクルしやすいように分別した上で、新たな「資源」として回収する（36.1%）」、「プラ容器等と容器以外のプラ製品をまとめて「資源」として回収し、区が分別する（16.1%）」となっている。

図表 77 容器以外のプラ製品の回収方法（単一回答）



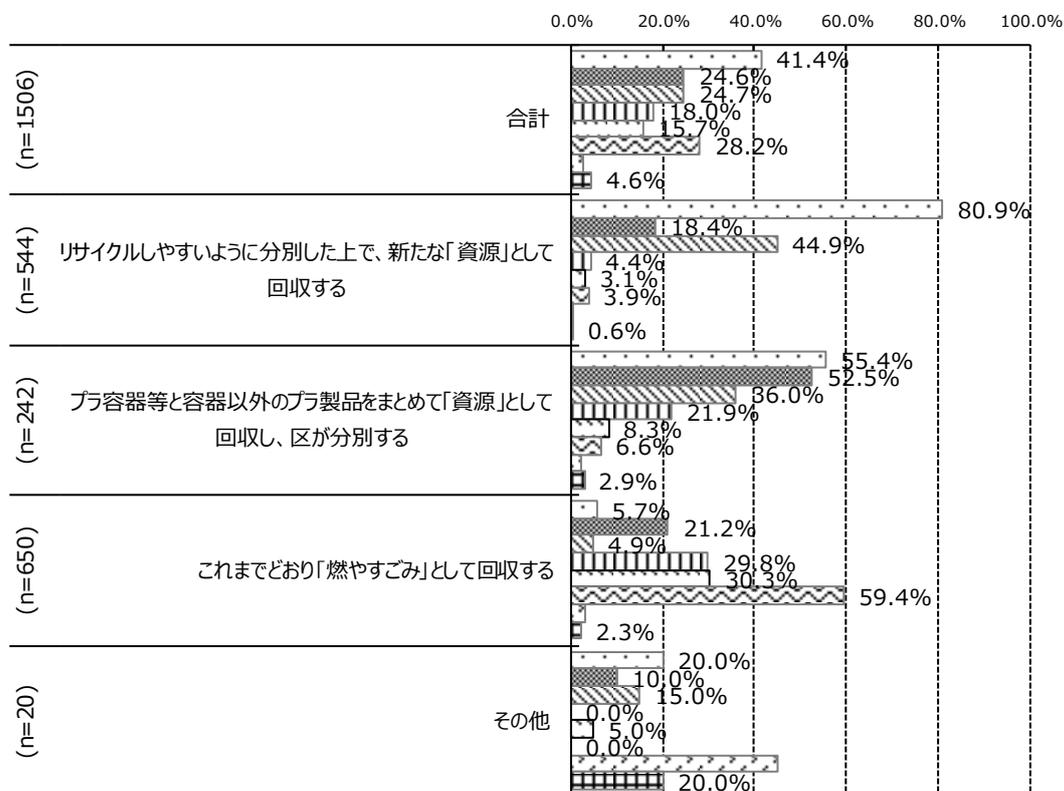
④③のように考えた理由

③のように考えた理由を尋ねたところ、「リサイクルしやすいように分別した上で、新たな「資源」として回収する」と回答した人においては、「プラスチック全体のリサイクルが進むから」「焼却による二酸化炭素の排出抑制など地球温暖化対策に貢献できるから」の割合が高い。

「プラ容器等と容器以外のプラ製品をまとめて「資源」として回収し、区が分別する」と回答した人においては、「プラスチック全体のリサイクルが進むから」「プラ容器等のみを『資源』として分別するのは分かりにくいから」の割合が高い

「これまでどおり『燃やすごみ』として回収する」と回答した人においては、「まとめて焼却できる機能を活用したほうが効率的であるから」の割合が高い。

図表 78 ③のように考えた理由（複数回答）



- プラスチック全体のリサイクルが進むから
- プラ容器等のみを「資源」として分別するのは分かりにくいから
- 焼却による二酸化炭素の排出抑制など地球温暖化対策に貢献できるから
- 分別などによる区民の負担は増えない方がよいから
- 細かな品目でリサイクルを行うと、費用がかかってしまうから
- まとめて焼却できる機能を活用したほうが効率的であるから
- その他
- 無回答

(14) 区の施策について

①今後10年の間に、目黒区の施策として重視すべき取組

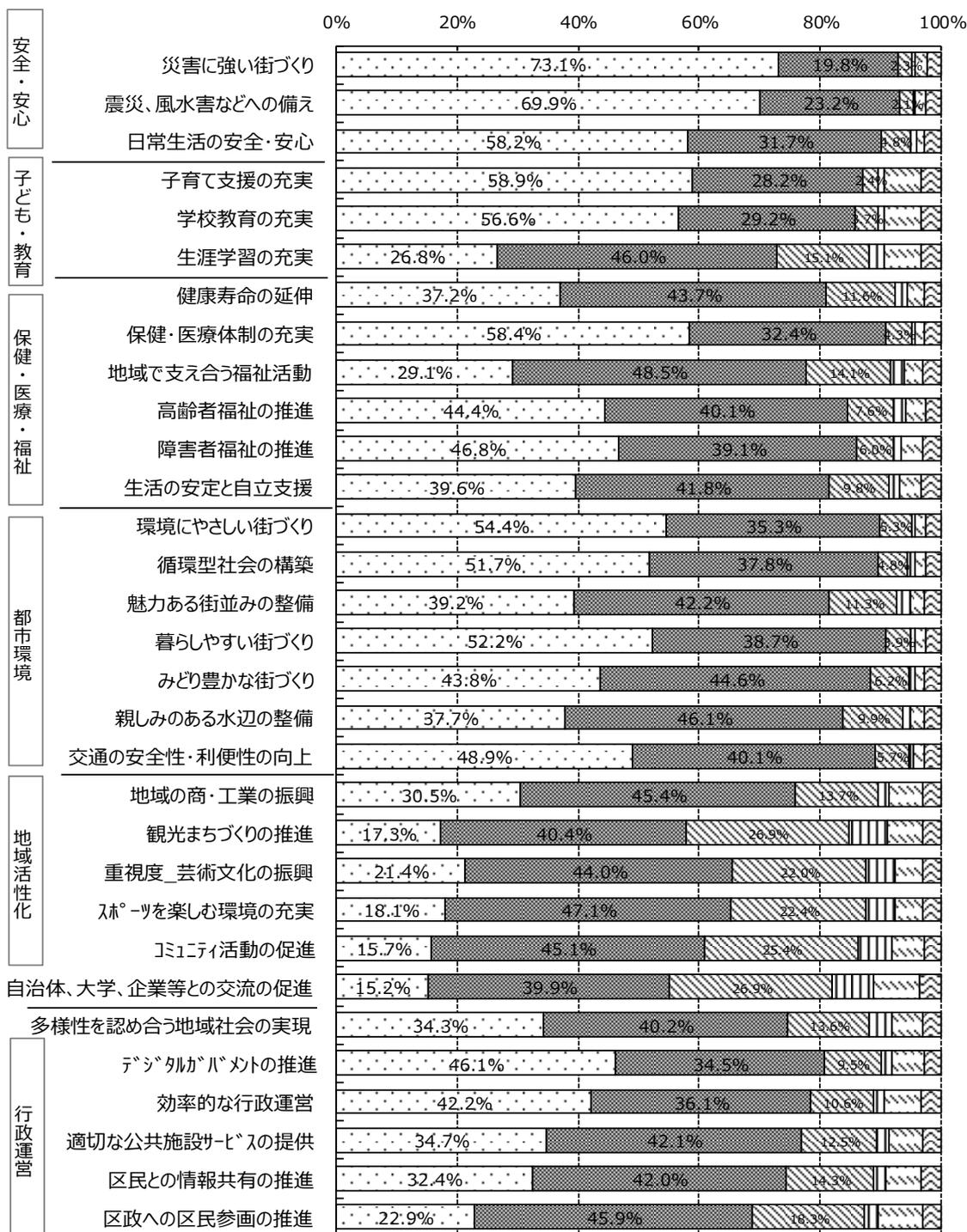
今後10年の間に、目黒区の施策としてどのような取組を重視していくべきか尋ねたところ、次のような結果となった。「重要である」の割合は、とくに「安全・安心」の分野や、「子ども・教育」(※生涯学習除く)にて高くなっている。「重要である」「まあ重要である」の割合を合わせると、前述の2分野に加え、「保健・医療・福祉」「都市環境」分野でも高い。

なお、調査票において示した各施策の詳細は下記のとおりである。

図表 79 施策一覧

	区分	主な施策
安全・安心	災害に強い街づくり	道路・橋りょう等の都市基盤の整備、建築物の不燃化・耐震化の促進など
	震災、風水害などへの備え	避難所整備、防災訓練の充実、意識啓発など
	日常生活の安全・安心	特殊詐欺被害の防止、生活安全パトロールの推進、消費者被害の防止など
子ども・教育	子育て支援の充実	保育サービスの充実、放課後の居場所づくり、育児相談、児童虐待防止など
	学校教育の充実	学校施設の整備・更新、学力の向上、豊かな心の育成など
	生涯学習の充実	生涯学習講座の実施、社会教育活動の支援、図書館の充実など
保健・医療・福祉	健康寿命の延伸	健康づくりの推進、健診・保健指導の実施など
	保健・医療体制の充実	感染症対策、在宅療養の支援、食品衛生・環境衛生の推進など
	地域で支え合う福祉活動	地域における支え合いの仕組みづくり、見守り活動の推進など
	高齢者福祉の推進	高齢者福祉施設の整備、在宅サービスの充実、社会参加の場づくりなど
	障害者福祉の推進	障害者福祉施設の整備、自立・社会参加の支援など
都市環境	生活の安定と自立支援	生活援助、就労相談の実施など
	環境にやさしい街づくり	地球温暖化対策、大気・水質の汚染対策など
	循環型社会の構築	ごみの減量化、省資源・リサイクルの推進など
	魅力ある街並みの整備	都市景観の整備、都市計画、地区計画など
	暮らしやすい街づくり	放置自転車対策、道路の無電柱化、空き家対策、バリアフリーの推進など
	みどり豊かな街づくり	公園整備、緑化の推進、生物多様性の確保など
	親しみのある水辺の整備	河川の水質浄化、川沿いの通路、環境の整備など
地域活性化	交通の安全性・利便性の向上	交通安全対策、自転車の走行環境の整備、地域交通の支援など
	地域の商・工業の振興	商店街の活性化支援、創業者支援、融資あっせんなど
	観光まちづくりの推進	観光資源の活用、来訪者への情報提供の充実、多言語対応の推進など
	芸術文化の振興	コンサート、展覧会の開催、芸術文化活動の支援など
	スポーツを楽しむ環境の充実	スポーツ教室の開催、スポーツ・レクリエーションの支援など
	コミュニティ活動の促進	町会・自治会、住区住民会議活動、ボランティア活動への支援など
行政運営	自治体、大学、企業等との交流の促進	他の自治体の市民との交流、地域の大学、企業等の連携など
	多様性を認め合う地域社会の実現	人権尊重、男女平等・共同参画の推進、外国人住民への支援など
	デジタルガバメントの推進	各種手続のデジタル化、情報セキュリティ対策など
	効率的な行政運営	行政内部の事務のICT活用、民間活力の活用、職員の人材育成など
	適切な公共施設サービスの提供	区有施設の見直しの推進など
	区民との情報共有の推進	情報公開、オープンデータの推進など
区政への区民参画の推進	行政検討に先立つ区民提案づくりの機会の充実など	

図表 80 今後 10 年で重視すべき取組（単一回答）

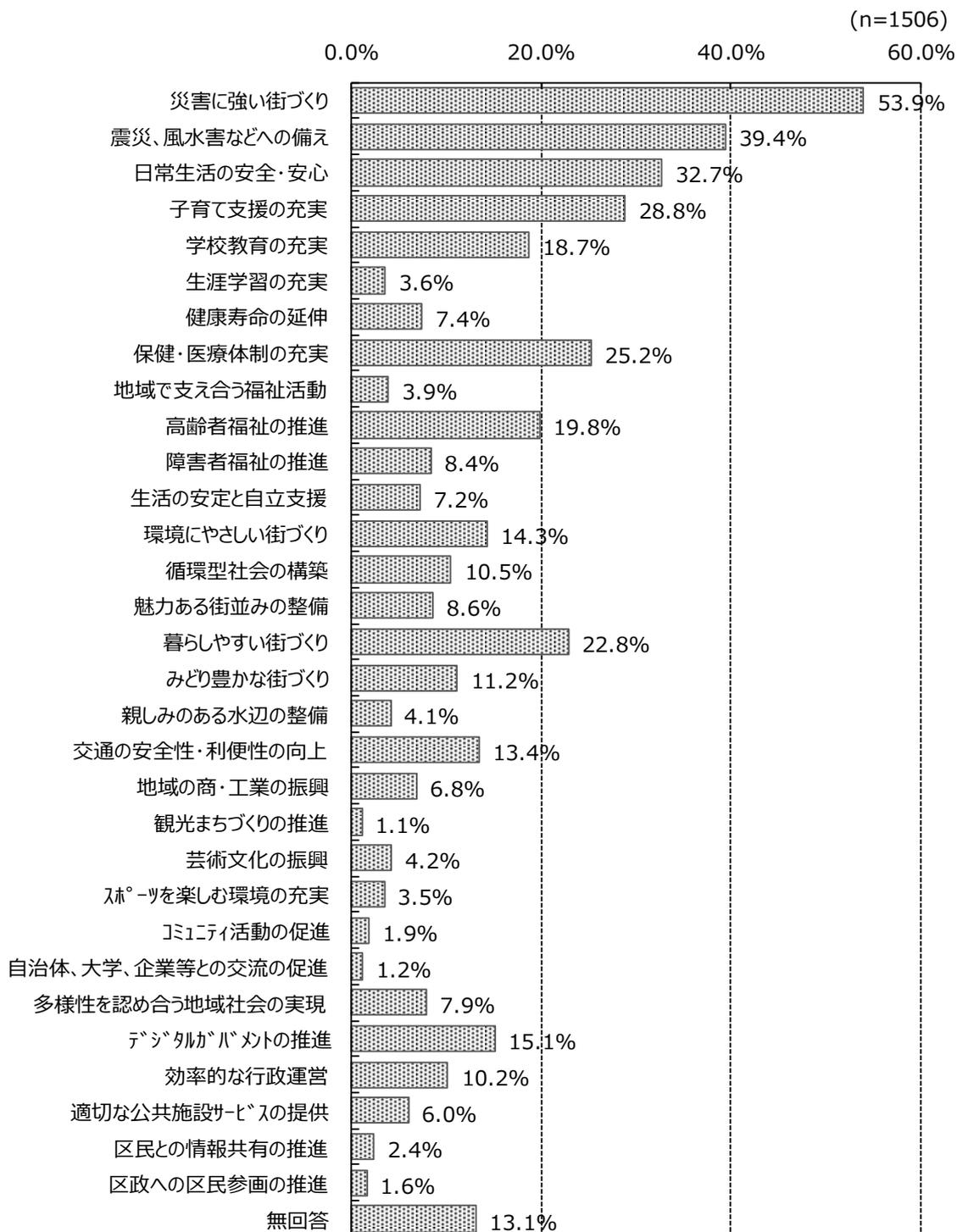


□重要である ■まあ重要である ▨あまり重要でない □重要でない □わからない・その他 □無回答

②特に優先すべき施策

前問の取組のうち、目黒区の施策として特に優先すべきものを尋ねたところ、「災害に強い街づくり」の割合が最も高く 53.9%となっている。次いで、「震災、風水害などへの備え (39.4%)」、「日常生活の安全・安心 (32.7%)」となっている。

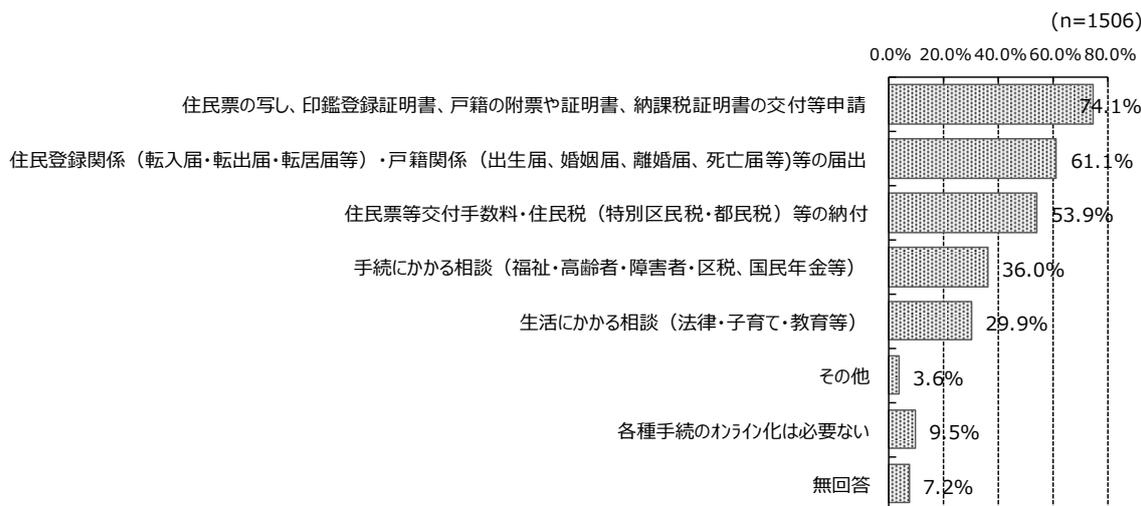
図表 81 特に優先すべき施策（複数回答：5つまで）



③オンライン化を希望する行政手続

各種行政手続や相談などで、オンライン化したほうがよいと思うものを尋ねたところ、「住民票の写し、印鑑登録証明書、戸籍の附票や証明書、納課税証明書の交付等申請」の割合が最も高く 74.1%となっている。次いで、「住民登録関係（転入届・転出届・転居届等）・戸籍関係（出生届、婚姻届、離婚届、死亡届等）等の届出（61.1%）」、「住民票等交付手数料・住民税（特別区民税・都民税）等の納付（53.9%）」となっている。

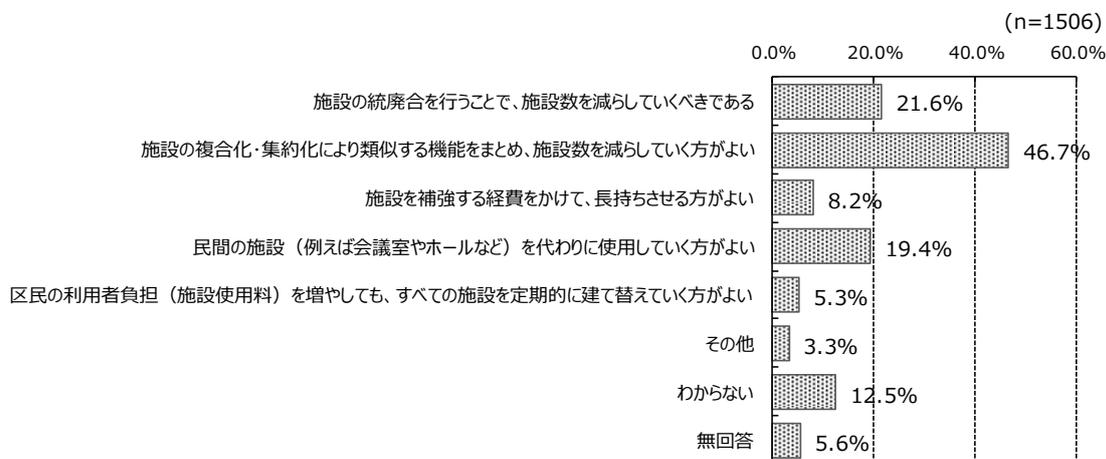
図表 82 オンライン化を希望する行政手続（複数回答）



④区有施設について取り組むべき方策

今後、区有施設にかかる経費を抑制する必要があることを見込まれることをふまえ、区有施設に関して区が取り組むべき方策を尋ねたところ、「施設の複合化・集約化により類似する機能をまとめ、施設数を減らしていく方がよい」の割合が最も高く 46.7%となっている。次いで、「施設の統廃合を行うことで、施設数を減らしていくべきである（21.6%）」、「民間の施設（例えば会議室やホールなど）を代わりに使用していく方がよい（19.4%）」となっている。

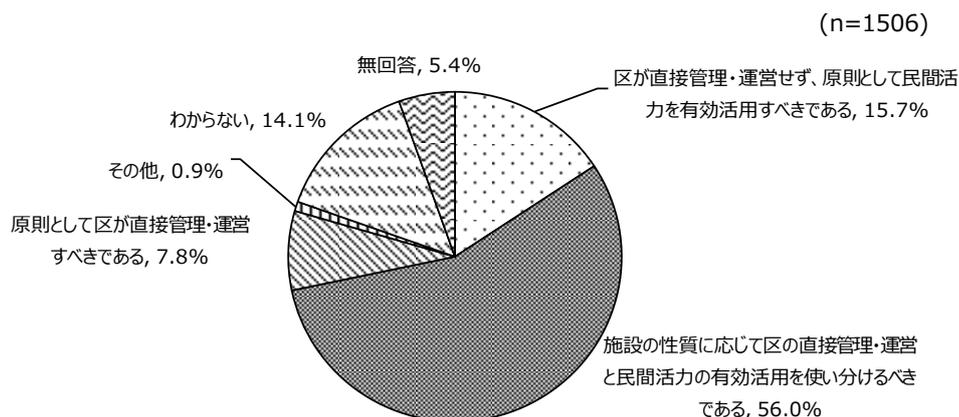
図表 83 区有施設について取り組むべき方策（複数回答）



⑤民間活力を用いた区有施設の管理・運営への考え方

民間活力の活用（委託や指定管理者制度の導入等）により、区有施設の管理・運営を行うことについて考えを尋ねたところ、「施設の性質に応じて区の直接管理・運営と民間活力の有効活用を使い分けるべきである」の割合が最も高く 56.0%となっている。次いで、「区が直接管理・運営せず、原則として民間活力を有効活用すべきである（15.7%）」、「わからない（14.1%）」となっている。

図表 84 民間活力の活用による区有施設の管理・運営への考え方（単一回答）



⑥民間活力を用いた区有施設の整備・保有への考え方

老朽化した区有施設の更新（建て替えや大規模改修）や新しい施設整備において、民間活力を活用して整備し、その後も民間が施設を管理・運営することも想定される。このような整備・運営手法についての考えを尋ねたところ、「民間による整備・保有、管理・運営を行うのは、それにより特に高い効果が期待できる施設に限定すべきである」の割合が最も高く 41.3%となっている。次いで、「民間で提供可能なものは原則として民間に任せるべきである（32.5%）」、「わからない（12.3%）」となっている。

図表 85 民間活力を用いた区有施設の整備・保有への考え方（単一回答）

